

令和5年度 山形市社会福祉事業団 事業報告書

I 事務局

(1) 理事会の開催

事業団定款に基づき、下記のとおり理事会を開催した。

① 第205回理事会（5月10日）……山形市役所

（報告事項）

- ・給食調理業務の委託契約の締結について

（審議事項）

- ・令和4年度事業報告について
- ・令和4年度決算の承認について
- ・次期役員候補者について
- ・評議員会の招集について

② 第206回理事会（5月25日）……山形市役所

- ・理事長、副理事長及び常務理事の選定について

③ 第207回理事会（10月25日）……山形市役所

（報告事項）

- ・事業団の業務執行状況について

（審議事項）

- ・令和5年度補正予算について
- ・職員の給与等に関する規程の一部改正について
- ・契約職員就業規則の一部改正について
- ・職員被服貸与規程の一部改正について
- ・指定通所介護事業所山形市銅町デイサービスセンター運営規程の一部改正について
- ・指定通所介護事業所山形市銅町デイサービスセンター山形市介護予防・日常生活支援総合事業における通所型サービス（従前相当）運営規程の一部改正について
- ・評議員候補者の推薦について
- ・評議員選任・解任委員の選任について
- ・苦情解決規程に基づく第三者委員の選任について
- ・評議員会の招集について

④ 第208回理事会（3月13日）……山形市役所

（報告事項）

- ・理事長及び常務理事の職務執行状況について
- ・元菅沢荘入所者の遺族からの提訴について
- ・消費税の納付について
- ・菅沢デイサービスセンター（認知症型）の休止について

(審議事項)

- 令和5年度補正予算について
- 令和6年度事業計画について
- 令和6年度資金収支予算について
- 定款施行細則の一部改正について
- 就業規則の一部改正について
- 職員の給与等に関する規程の一部改正について
- 契約職員就業規則の一部改正について
- 指定介護老人福祉施設菅沢荘運営規程等の一部改正について
- 給食調理業務の委託に係る契約方法及び指名業者の選定について
- 補欠の理事候補者の選定について
- 評議員候補者の推薦について
- 評議員会の招集について
- 事務局長、事務局次長及び主幹の任免について

(2) 役員の異動

① 役員の改選

令和5年5月25日開催の評議員会で下記の者9名が役員に選任された。また、同日開催の理事会で高倉正則理事が理事長に、松浦雄大理事が副理事長に、土田郁子理事が常務理事に選定された。

ア 理事（7名）

高倉 正則（理事長） 松浦 雄大（副理事長） 土田 郁子（常務理事）
伊豆田公蔵 三瓶 典子 高野 則夫 大場由美子

イ 監事（2名）

青嶋智重子 原田 大輔

② 役員の辞任

令和6年3月31日付けで土田郁子理事が常務理事及び理事を辞任した。

(3) 評議員会の開催

事業団定款に基づき、下記のとおり評議員会を開催した。

① 第94回評議員会（5月25日）……山形市役所

(報告事項)

- 令和4年度事業報告について

(審議事項)

- 令和4年度決算の承認について
- 次期役員の選任について

② 第95回評議員会（11月15日）……食糧会館

(審議事項)

- 令和5年度補正予算について

③ 第96回評議員会（3月25日）……山形市役所

（報告事項）

- 元菅沢荘入所者の遺族からの提訴について
- 消費税の納付について
- 菅沢デイサービスセンター（認知症型）の休止について

（審議事項）

- 令和5年度補正予算について
- 令和6年度事業計画について
- 令和6年度資金収支予算について
- 補欠の理事の選任について

(4) 評議員の異動

① 評議員の退任

- 渡部 正美 令和5年5月30日付け 辞任
- 田村 則子 令和5年6月29日付け 辞任
- 荒木 雅彦 令和5年10月19日付け 辞任

② 評議員の就任

- 高瀬 謙治 令和5年10月25日付け 就任
- 高橋真理子 令和5年10月25日付け 就任
- 小野 徹 令和6年3月13日付け 就任

(5) 評議員選任・解任委員会の開催

① 第7回評議員選任・解任委員会（10月25日）……山形市役所

（審議事項）

- 評議員の選任について

② 第8回評議員選任・解任委員会（3月25日）……山形市役所

（報告事項）

- 元菅沢荘入所者の遺族からの提訴について
- 消費税の納付について
- 菅沢デイサービスセンター（認知症型）の休止について

（審議事項）

- 評議員の選任について

(6) 評議員選任・解任委員の異動

① 評議員選任・解任委員の退任

- 蜂谷 博 令和5年8月31日付け 辞任
- 佐藤 浩治 令和6年3月31日付け 辞任

② 評議員選任・解任委員の就任

- 奥山 信昭 令和5年10月25日付け 就任

(7) 運営協議会の開催

事業団定款に基づき、下記のとおり運営協議会を開催した。

- ① 第13回運営協議会（7月7日）……山形県J Aビル
（協議事項）
 - ・令和4年度事業報告及び決算について
- ② 第14回運営協議会（2月21日）……山形市役所
（報告事項）
 - ・元菅沢荘入所者の遺族からの提訴について
 - ・消費税の納付について
 - ・菅沢デイサービスセンター（認知症型）の休止について
（協議事項）
 - ・令和6年度事業計画（案）について

(8) 運営協議会委員の異動

- ① 運営協議会委員の退任
 - ・米川 秀 令和5年5月11日付け 辞任
 - ・平吹 史成 令和6年3月31日付け 辞任
- ② 運営協議会委員の就任
 - ・土田 富夫 令和5年7月1日付け 就任
 - ・鈴木 章人 令和5年7月1日付け 就任
 - ・平吹 史成 令和5年7月1日付け 就任

(9) 職員の状況について

① 職員数

区 分	令和5年4月1日 現在	年度中の増減			令和6年3月31日 現在
		採用者	退職者	増減	
正 規 職 員	138名	2名	5名	△3名	135名
契 約 職 員	61名	7名	1名	6名	67名
パート職員	62名	12名	6名	6名	68名
計	261名	21名	12名	9名	270名
派 遣 職 員	13名	7名	7名	0名	13名

※正規職員には再任用職員7名を含む。常務理事を除く。

② 職員採用試験の実施状況

事業団の要員計画に基づき、前年度からの職員の欠員補充を図るため、職員採用試験を実施した。全8回実施の予定であったが、応募者の状況により令和5年度は7回の実施となった。職員採用試験を実施した結果、下記のとおり10名の合格者を内定した。

職種名	募集人数	受験者数	合格者	採用者
指導員・保育士	2名程度	4名	3名	3名
保健師	1名	1名	1名	0名
看護師	1名	2名	2名	2名
介護員	9名程度	6名	4名	3名

※保健師の合格者1名、介護員の合格者1名が採用辞退となった。

③ 職員の採用状況

ア 令和5年4月1日付け採用者4名（指導員・保育士3名、介護員1名）

イ 令和5年7月1日付け採用者1名（介護員1名）

ウ 令和6年2月1日付け採用者1名（看護師1名）

④ 再任用職員の任用

再任用職員制度に基づき、令和5年3月31日付け定年退職者2名を4月1日から再任用するとともに、再任用職員5名の任期を更新し、経験のある人材の有効な活用を図った。

⑤ 障がい者の雇用状況

まんさくの丘、菅沢荘及びあたご荘において、引き続き障がい者6名を雇用した。

⑥ 職員健康診断・ストレスチェックの実施状況

ア 職員の健康診断を例年のとおり実施した。（実施者222名）

イ 職員のストレスチェックを例年のとおり実施した。（実施者209名）

(10) 経営基本方針及び第2期経営改善指針に基づく取り組み

令和4年3月に策定した事業団の経営基本方針及び第2期経営改善指針に基づき、下記のとおり安定した福祉サービスの提供と経営の健全化に向けた取り組みを実施した。

① 経営基本方針に基づく取り組み

ア 山形市の指定管理者として指定期間3年目を迎え、引き続き市有施設の適正な管理運営と利用者への適切な福祉サービスの提供に努めた。

イ グループホームこもれびによる障がい者の短期入所及び山形市から受託した緊急入所の受入を行うとともに、菅沢荘ショートステイによる積極的な措置入所者の受入を行い、福祉セーフティネットの機能を果たした。

ウ 地震等の大規模な自然災害や感染症が発生した場合に、利用者及び職員の生命を守り、継続して必要なサービスを提供できるよう拠点施設ごとに業務継続計画（BCP）等を策定した。

エ 利用者に対する虐待の発生等を防止するため、虐待の防止のための指針の策定、虐待の防止のための対策を検討する委員会の開催、定期的な職員研修の実施、担当者の設置など拠点施設ごとに必要な体制を整備した。

オ 事業団ホームページを活用し、法人・施設の紹介、職員採用情報の掲載を行うとともに、経営状況等の情報を適切に公表し、運営の透明性の確保を図った。

カ 業務の見直し・効率化を推進するため、新たに職員から業務改善提案書を求め、課題を把握し、可能な限り業務の改善につなげた。

② 第2期経営改善指針に基づく取り組み

ア 収入の確保

これまでと同様に稼働率又は年間利用者数等の目標値を設定し、利用者の確保に努めた。令和5年5月に新型コロナウイルスが5類感染症に移行されたものの、引き続き利用者・職員に感染者が見られ、自主的な利用制限等により収入の確保が難しい状況であった。

イ デイサービスセンターの在り方の検討

山形市を発注者として、令和5年6月から9月にかけて菅沢荘及び菅沢・銅町デイサービスセンター等を対象に独立行政法人福祉医療機構による運営施設の経営分析が実施された。経営分析の結果を参考に、今後の経営改善の取り組みに活かすとともに、デイサービスセンターの今後の具体的な対応等について、引き続き山形市との協議を進める。

なお、介護人材の不足等により安定した事業運営の継続が困難なことから、山形市と協議の上、令和6年4月1日から菅沢デイサービスセンターの認知症型を休止するを決定した。

ウ 職員の待遇改善の実施

国の「デフレ完全脱却のための総合経済対策」に基づき、国の補助金等をもとに、令和6年2月から特別処遇改善手当を月額で1,500円～4,000円引き上げ、職員の賃金改善を実施した。

(1) そ の 他

① 事業団創立40周年記念式典の開催

令和5年7月に事業団設立40年の節目を迎えたことから、8月2日にパレスグランデールにて創立40周年記念式典を開催した。関係団体・地域関係者など105名の方にご出席いただき、これまでの歩みを振り返りさらなる発展に向け決意を新たにす機会となった。

また、長年にわたり運営施設にご協力いただいた34の個人・団体の方に感謝状を贈呈した。併せて、勤続30年以上の職員6名に永年勤続表彰を行った。

② 光熱費等の物価高騰に係る支援給付金及び補助金の交付

前年度に続き光熱費等の物価高騰の影響により、事業運営に係る経費が増大していることから、対象事業所において山形市又は山形県から支援金及び補助金の交付を受けた。

ア 山形市光熱費等支援給付金（障がい者施設：1,765,400円、高齢者施設：4,326,000円）

イ 山形県物価高騰対策支援金（障がい者施設：1,400,000円、高齢者施設：300,000円、児童養護施設：400,000円）

ウ 山形市指定管理者光熱費高騰対策等緊急支援補助金（まんさくの丘：305,039円、あたご荘：6,726,357円、銅町デイサービスセンター：511,438円）

③ 消費税の納付

山形市委託事業に係る委託料など課税収入が1千万円を超え、事業団が消費税の課税事業者であることが判明したことから、消滅時効にかからない平成30年度から令和4年度までの5年間の過年度分に係る消費税約1千万円を令和6年1月に税務署に納付した。併せ

て、3月に延滞税及び無申告加算税を納付した。(令和5年度分は令和6年5月末に納付予定)

④ 情報公開・個人情報保護制度の運用状況

- 情報公開請求 0件
- 個人情報開示請求 0件

⑤ 苦情解決制度の運用状況

ア 苦情解決第三者委員会の開催(7月14日)……山形学園

令和4年度の苦情件数、利用満足度調査の結果及び令和5年度の苦情解決体制等を報告した。なお、第三者委員による担当施設の訪問については、新型コロナウイルスの感染状況から開催を見送った。

イ 第三者委員の異動

- 蜂谷 博 令和5年8月31日付け 辞任
- 奥山 信昭 令和5年10月25日付け 就任

Ⅱ 土地・建物の状況

指定管理者として管理運営する施設の土地・建物の状況は、下記のとおりである。

名 称	所 在	土 地	建 物
まんさくの丘	蔵王半郷	19,174.52㎡	2,757.24㎡
児童養護施設山形学園	蔵王上野	21,687.39㎡	1,702.69㎡
高齢者総合福祉施設すげさわ	すげさわの丘	30,138.08㎡	5,123.49㎡
養護老人ホームあたご荘	大字岩波	12,779.48㎡	4,177.95㎡
銅町デイサービスセンター	銅町二丁目	1,713.03㎡	813.63㎡

Ⅲ まんさくの丘

こまくさ学園、恵光園及び蔵王通勤寮の3施設を中心に、それぞれの事業の特性を活かしながら、総合福祉施設として社会的な役割を果せるよう、常に連携を図りながら事業の運営を行った。

(1) 施設全体としての取り組み

① 各施設との連携の推進

ア まんさくの丘調整会議を毎月2回開催し、それぞれの施設や事業との連携と調整を図り、効果的かつ効率的な運営に努めた。

イ 職員による各種委員会を組織し、それぞれの活動を通して、利用者への福祉サービスの向上と施設運営の改善と活性化を図った。(研修委員会、給食委員会、地域福祉委員会、防災委員会、環境整備委員会、衛生委員会、虐待防止委員会 等)

② 安全管理に関する取り組み

ア 火災や自然災害に備えて、総合防災訓練を年2回、避難訓練を毎月実施した。

イ 施設内外の事故防止を図るため、安全点検を行い必要に応じて対策を講じた。

ウ 新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症を予防するため、施設全体で連携しながら徹底した取り組みを行った。

エ 衛生委員会を毎月開催し、職場の安全衛生の推進を図った。

オ 大規模な災害等に備え、業務継続計画の策定に向けて検討を進めた。

③ 地域社会との交流

「まんさくの丘まつり」を4年ぶりに開催し、多くの来場者で賑わいを見せ、地域の方々と交流を図ることができた。また、同様に再開された「蔵王地区まつり」への参加、「地域福祉懇談会」と健康講座の開催など、地域社会との交流をコロナ禍前と同程度進めることができた。

④ 虐待防止及び身体拘束の適正化の推進

まんさくの丘虐待防止委員会運用指針に基づき、虐待防止に関する全職員に対する研修などを実施し、職員全体の倫理意識を高めた。

1 児童発達支援センター こまくさ学園

幼児期に必要な基本的なソーシャルスキルを一人ひとりが可能な限り獲得できるよう支援するとともに、家庭と連携しながら感染症等の基本的対策を徹底し、感染症の予防に努めた。新型コロナウイルスが5類感染症となったことに伴い、学園の行事や主催の研修は、感染対策を講じた上で実施した。

利用状況については、4月に10人が入園し、定員の30人でのスタートとなった。延利用児数は前年度比202人増の6,536人で、利用率は前年度比2.5%増の80.7%であった。7月～8月にかけて風邪や胃腸炎、RSウイルス、水痘等で体調を崩し欠席する園児がいたこと、11月に園児又は家族のインフルエンザや新型コロナウイルスの感染による自宅療養のため欠席が多かったこと等が影響し、目標値の82%をやや下回った。

また、地域療育の拠点としてその役割を果たすため、相談支援の充実を図りながら、保育

所や山形市保健所等への支援を実施し、地域療育の向上に努めた。

① 利用状況

事業所名		こまくさ学園												利用定員	30名
事業種別		福祉型児童発達支援センター												目標値	平均利用率82%
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
本年度	開 園 日 数	22	22	24	23	24	23	23	22	22	21	21	23	270日	－
	利用登録児数(人)	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360人	30.0人
	延利用児数(人)	544	550	636	505	557	567	596	472	563	530	527	489	6,536人	544.7人
	1日平均利用(人)	24.7	25.0	26.5	22.0	23.2	24.7	25.9	21.5	25.6	25.2	25.1	21.3	－	24.2人
	利 用 率(%)	82.4	83.3	88.3	73.2	77.4	82.2	86.4	71.5	85.3	84.1	83.7	70.9	－	80.7%
前年度	利用登録児数(人)	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360人	30.0人
	延利用児数(人)	541	533	594	567	496	529	469	528	477	546	511	543	6,334人	527.8人
	利 用 率(%)	78.4	84.6	82.5	82.2	68.9	80.2	68.0	80.0	72.3	86.7	81.1	75.4	－	78.2%

② 年齢構成 (令和6年3月31日現在)

在籍者	0～2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	平均年齢
30人	0人	0人	7人	9人	14人	5.5歳

③ 障がい程度状況 (令和6年3月31日現在)

在籍者	最重度	重 度	中 度	軽 度
30人	0人	8人	16人	6人

④ 通園バスの運行状況 (令和6年3月31日現在)

区 分	定 員	利 用 者	乗降地点	走行キロ数(1日平均は平均運行距離)	
				年 間	1日平均
2号車	21人補8人	14人	6ヶ所	14,566km	61.0km

⑤ 療育支援

ア 療育全般

遊びや運動を通して、信頼関係を築き、子どもの心の動きを理解するよう努め、気持ちを尊重しながら、社会性や言語の獲得、基礎体力づくり、基本的な対人関係の確立など幼児期の発達に必要な療育を行った。

イ 生活習慣の自立

衣服の着脱・食事・排泄など生活習慣の自立に向けた療育を行った。

ウ ケースカンファレンス

公認心理師・臨床心理士を招いてのケースカンファレンスを年度内に10回実施した。児童一人ひとりの発達課題や関わりについて職員が理解を深め、支援の質の向上に努めた。

⑥ 健康衛生管理

毎月身体測定(身長・体重)を実施するとともに、専門医による各科健診(内科、眼科、耳鼻科、歯科)を年2回実施し、児童の健康管理に努めた。また、歯科衛生士による歯磨き指導やフッ素塗布を実施した。

毎日の感染予防対策として、検温、うがい、手洗い、手指消毒、マスクの着用、換気、

室内の消毒、加湿器や空間除菌脱臭機の設置等を行った。

⑦ 交流保育

近隣の幼稚園との交流保育は、新型コロナウイルス等の感染防止のため中止とした。

⑧ クラス別活動

毎月の活動計画に基づき、クラス毎に小集団での課題活動を行った。

⑨ 行 事

季節に応じた催しにより自然や季節を感じ、様々な社会体験により適応力や協調性を養うため、次の行事を実施した。

月	行 事 内 容
4月	入園式、お花見
5月	乗馬体験、ドッグセラピー
6月	プール開き、社会見学（園外活動）
7月	合宿、七夕、バスハイク
8月	夏まつり
9月	遠足、まんさくの丘まつり
10月	親子レクリエーション、乗馬体験、ドッグセラピー
11月	給食センター見学、交通安全教室
12月	クリスマス会
1月	だんご木刺し
2月	節分あそび
3月	おひなまつり、卒園式

⑩ 給 食

給食委員会を毎月実施し、献立内容と食事摂取状況などを把握するとともに、年間計画に基づき季節感や変化のある給食の実施に努めた。

⑪ 保護者支援

保護者と関わる中で悩みや問題を少しでも解決できるよう、日々の療育相談、連絡帳の活用のほか、以下の支援を行った。

- ・家庭訪問（10件）
- ・個人面談（各保護者年3回）
- ・研修会（年7回）
- ・自由参観（年2回）
- ・療育参観（各クラス年2回）
- ・療育説明会（年1回）
- ・保護者茶話会（5回）
- ・保護者懇親会

⑫ 就 学

保護者の意向や子どもの発達段階に応じて、教育委員会、小学校、特別支援学校などの関係機関と密接に連絡を取りながら就学に向けた指導・支援を行った。

区分	名 称	人数	名 称	人数
就学	山形県立村山特別支援学校本校	6人	山形市立西小学校	1人
	山形県立村山特別支援学校山形校	3人	山形市立蔵王第一小学校	1人
	山形市立第六小学校	1人	上山市立上山小学校	1人
	丸亀市立城辰小学校	1人	合 計	14人

⑬ 卒園児支援

学校からの要請を受け、定期的に学校に出向き情報交換や支援を行った。

⑭ 災害防止

非常災害に備え、避難訓練10回、総合防災訓練2回、職員の救命救急訓練を実施した。
また、園内活動や園外行事等は、無理のない内容・日程に配慮し計画を立て実施した。

⑮ 苦情解決

- ・相談、要望などはあったが、苦情として受け付けたものはなかった。
- ・保護者にアンケート調査を実施し、利用満足度において「非常に良い」「良い」が全体の98.0%という結果であった。また、国のガイドラインに従い、引き続き保護者の「児童発達支援評価表」と事業所の「自己評価結果」をホームページに掲載した。

⑯ 職員研修

ア 職場内研修

- ・日時 令和5年4月3日（月）
内容 「こまぐさ学園の療育内容について」（内部研修）
講師 業務調整主査 伊藤 亮
- ・日時 令和5年6月21日（水）（乳幼児救急法講習）、6月28日（水）（成人救急法講習）
内容 「救命救急の講習」
講師 日本赤十字社山形県支部 指導員
- ・日時 令和6年3月28日（木）
内容 「障がいのある人の権利擁護・虐待防止について」（虐待防止委員会研修）
講師 業務調整主査 伊藤 亮
- ・その他 4件

イ 職場外研修（※はオンライン研修）

- ・山形県発達障がい者支援センター研修会 ※ 5月23日 3名
- ・全国知的障害関係施設長等会議・研修 ※ 8月7日 1名
- ・山形県強度行動障害支援者養成研修（基礎研修） 8月31日、9月26日～27日 2名
- ・支援力向上研修 8月21日、11月20日、2月27日 1名
- ・障がい児地域療育担当者研修会 11月29日 2名
- ・発達支援基礎養成研修開催 2月13日、22日、29日 3名
- ・その他 6件 9名

※強度行動障害支援者養成研修、支援力向上研修等の講師としても職員が参加した。

⑰ 実習生等の受け入れ

- ・保育実習 7名 ・在宅看護論実習 12名
- ・地域で暮らす人を理解する実習Ⅰ 4名 ・介護等体験実習 2名
- ・発達障がい作業療法実習 22名 ・心理実習 8名

⑱ 研修事業

毎年、保育所・幼稚園・放課後児童クラブ・療育機関・行政機関等の関係者らを対象に公開講座を開催していたが、本年度は所属職員向けの講座として開催した。

第1回 令和5年12月6日(水) 15:15~17:00 テーマ:「社会性について」「事例検討」 講 師:公認心理師・臨床心理士 加藤 玲子 氏 受講者:13名
第2回 令和6年1月17日(水) 15:15~17:00 テーマ:「親とのつきあい方 緊急支援」「事例検討」 講 師:公認心理師・臨床心理士 加藤 玲子 氏 受講者:14名
第3回 令和6年3月28日(木) 13:15~15:00 テーマ:支援力向上研修「子どもの行動と心情を理解する」 講 師:こまくさ学園 業務調整主査 伊藤 亮 受講者:14名

⑭ 相談支援

ア 巡回相談(山形市保健所)

- 幼児発達相談 年11回

イ 外来相談

臨床心理士による行動観察、助言、相談を行った。

- 年27回 延べ42件

ウ 相談室

- 年11回 延べ19件

2 児童発達支援事業 ひよこ教室

発達に心配のある幼児を持つ保護者のニーズに応えるため、親子での通園による小集団療育のほか、単独での療育コースを定期的実施し、発達段階に応じたきめ細やかな療育を行った。また、公認心理師による相談時間を増やし、家族支援、母親支援の充実を図った。

延利用児数は1,050人で目標値の1,100人を下回った。県内での新型コロナウイルスのほかヘルパンギーナやインフルエンザ等の感染症の流行が続く中で、保育所等と並行利用している利用児については、長期欠席になることも多かった。感染対策を丁寧に行い、発熱や風邪症状が見られたお子さんには、十分に回復した上で利用を再開するようご家庭と連携して対応した。

① 利用状況

事業所名		ひよこ教室										利用定員		10名/日	
事業種別		児童発達支援										目標値		年間利用者数1,100人	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
本年度	開 園 日 数	15	21	23	22	21	21	22	22	20	18	21	15	241日	-
	延 利用 児 数(人)	52	76	70	78	84	74	98	113	90	106	116	93	1,050人	87.5人
	1 日 平均 利用(人)	3.5	3.6	3.0	3.5	4.0	3.5	4.5	5.1	4.5	5.9	5.5	6.2	-	4.4人
前年度	延 利用 児 数(人)	52	73	86	104	107	107	96	95	92	95	128	112	1,147人	95.6人
	1 日 平均 利用(人)	3.7	3.7	3.7	4.7	5.1	5.1	4.6	4.3	4.4	5.6	6.1	6.6	-	4.8人

② 療育内容

- ・親子遊び、個別療育及び小集団療育を通じて、乳幼児の発達段階に必要な設定遊びや行事を実施した。
- ・〈設定療育〉ひよこ体操、ハイハイ運動、はしごくぐり、散歩、ひも通し、シール貼り、紙遊び、洗濯ばさみ遊び等
- ・公認心理師・臨床心理士による外来相談、ひよこカフェを実施した。
- ・保護者への相談支援を必要に応じて随時実施した。

3 放課後等デイサービス 風の子

小学生を対象に放課後や夏休み等の長期休暇中に療育や余暇の機会を提供し、心身両面のバランスのとれた発達を援助した。利用にあたっては、引き続き家庭や学校等と連携しながら感染症対策を徹底し、感染防止に努めた。

利用状況については、特に11月～12月は、利用児又は家族のインフルエンザや新型コロナウイルス等の感染による自宅療養の欠席や利用児が在籍する学校の学級閉鎖等による欠席が多かった。延利用児数は2,063人で目標値の2,200人を下回った。

① 利用状況

事業所名		風の子										利用定員		10名／日	
事業種別		放課後等デイサービス										目標値		年間利用者数2,200名	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
本年度	開 園 日 数	19	20	21	20	20	19	21	20	19	19	19	17	234日	－
	延 利 用 児 数(人)	166	179	192	176	174	178	196	156	162	173	167	144	2,063人	171.9人
	1 日 平 均 利 用(人)	8.7	9.0	9.1	8.8	8.7	9.4	9.3	7.8	8.5	9.1	8.8	8.5	－	8.8人
前年度	延 利 用 児 数(人)	161	176	216	151	169	189	160	123	158	168	159	152	1,982人	165.2人
	1 日 平 均 利 用(人)	8.5	9.3	9.8	7.9	8.5	9.5	8.0	6.2	8.3	8.8	8.4	8.4	－	8.5人

② 療育内容

- ・放課後や長期休暇中の療育の場として、幼児期に積み残した社会性、コミュニケーション及び自主性の成長を支援した。
- ・〈設定療育〉全身運動（サーキット・バランスボール等）、日常生活訓練、指先運動、クッキング、散歩、宿題等
- ・保護者への相談支援を必要に応じて随時実施した。
- ・随時学校や関係療育機関との連携を図った。

4 保育所等発達相談事業（山形市委託事業）

市内保育所等52カ所（民間立保育所31カ所、認定こども園21カ所）の保育士を対象に80回の巡回相談を実施し、発達に心配がある児童の支援方法の指導・助言を行い、保育所における発達支援技術の向上及び支援体制の充実に努めた。

新型コロナウイルスの感染状況をみて、日程の再調整をする等、安全に配慮して巡回相談等を実施した。

① 相談事業

事業所名		保育所等発達相談事業											利用定員		－名	
事業種別		山形市委託事業											目標値		延巡回数80回	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
巡回 相談	延 巡 数 (回)	0	1	7	11	10	11	5	11	8	8	8	0	80回	6.7回	
	延 対 応 数 (件)	0	4	28	42	39	35	19	40	33	20	18	0	278件	23.2件	
	前 年 度	0	4	33	26	48	26	22	29	36	36	23	0	283件	23.6件	
相談 室の フォロー 件数	相 談 室 (件)	2	1	2	1	0	2	2	2	1	2	2	2	19件	1.6件	
	外 来 相 談 (件)	0	0	0	1	5	5	5	4	4	6	8	4	42件	3.5件	
	計	2	1	2	2	5	7	7	6	5	8	10	6	61件	5.1件	
	前 年 度	2	0	2	4	5	9	8	6	6	9	4	9	64件	5.3件	

② 研修事業

ア 発達支援基礎養成研修会（年3回）

下記の研修会を開催し、第2回と第3回の講義後は事例検討及びグループ討議を行った。

第1回 令和6年2月13日（火） 14：00～17：00 テーマ：「乳幼児期の感覚統合遊び」 講 師：山形県立保健医療大学保健医療学部作業療法学科 准教授 森 直樹 氏 受講者：52名（公立保育園、民間立認可保育園、幼稚園、認定こども園）
第2回 令和6年2月22日（木） 14：00～17：00 テーマ：「支援を必要とする子の基本的理解に向けて」 講 師：公認心理師・臨床心理士 加藤 玲子 氏 受講者：32名（公立保育園、民間立認可保育園）
第3回 令和6年2月29日（木） 14：00～17：00 テーマ：「支援を必要とする子の基本的理解に向けて」 講 師：公認心理師・臨床心理士 加藤 玲子 氏 受講者：14名（幼稚園、認定こども園）

イ 令和5年度事例検討会

区 分	箇 所 数	延巡回数	延対応件数
民間立保育所	0	0	0

※巡回相談を希望する園が多かったため、巡回相談日として対応した。

ウ 保育所発達相談事業連絡会

令和5年5月10日に各保育所の代表者を対象に発達相談事業の説明会を開催した。

③ 発達支援（巡回相談）連絡会

関係各課（こども未来課、学校教育課等）との連絡会は実施できなかった。

5 生活介護事業 恵光園

利用者の希望や個性を尊重し、日々の活動を通して安心して主体的に活動に取り組める環境づくりと支援サービスの充実に努めた。家庭等との連携により利用者の心身の安定を図りながら支援にあたった。

平均利用率は76.3%で前年度とほぼ同じであったが目標の81%を下回った。新型コロナウイルスへの感染及び利用控えによる欠席、複数の長期入院者、利用を中止した方がいたことが主な要因である。事業に関しては、新型コロナウイルスの感染防止に配慮しながら、外出行事、保護者も参加できる行事、社会見学旅行を実施した。

① 利用状況

事業所名		恵光園										利用定員		40名	
事業種別		障害福祉サービス（生活介護）										目標値		平均利用率81%	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
本年度	開 園 日 数	22	22	24	23	24	23	23	22	22	21	21	23	270日	－
	利用登録者数(人)	42	42	42	42	41	41	40	40	40	40	39	39	488人	40.7人
	延利用者数(人)	745	724	767	718	624	701	727	704	702	661	608	699	8,380人	698.3人
	1日平均利用(人)	33.9	32.9	32.0	31.2	26.0	30.5	31.6	32.0	31.9	31.5	29.0	30.4	－	31.1人
	利 用 率(%)	80.6	78.4	76.1	74.3	63.4	74.3	79.0	80.0	79.8	78.7	74.2	77.9	－	76.3%
前年度	利用登録者数(人)	44	44	44	44	44	44	43	43	43	43	43	42	521人	43.4人
	延利用者数(人)	804	751	846	769	782	606	752	730	729	697	676	796	8,938人	744.8人
	利 用 率(%)	79.4	81.3	80.1	76.0	74.1	62.6	76.0	77.2	77.1	77.2	74.9	79.0	－	76.2%

② 年齢別構成 (令和6年3月31日現在)

在籍者	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	平均年齢
39人	1人	10人	5人	11人	5人	6人	1人	43.1歳

③ 障がい支援区分 (令和6年3月31日現在)

在籍者	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
39人	0人	0人	2人	12人	14人	11人

④ 通園バス運行状況 (令和6年3月31日現在)

区 分	定 員	利 用 者	乗降地点	走行キロ数(1日平均は平均運行距離)	
				年 間	1日平均
1号車	33人補9人	18人	10カ所	16,074km	59km
3号車	8人	8人	7カ所	15,328km	56km
4号車	6人	6人	5カ所	13,455km	49km

⑤ 日常活動

日々の生活で必要となる基本的な生活能力及び体力と基本的な生活習慣を養うため、個別支援計画等に基づき、継続的な活動、支援を行った。

⑥ 班別活動

利用者の希望や適性等を尊重し、通常は作業班と生活班の2つのグループに分かれてそれぞれ以下の活動に取り組んだ。

	項目	主 な 活 動 内 容	
作 業 班	作 業 活 動	作業トレーニングとして菓子箱（紙箱）折りの作業を行った。	
	創 作 活 動	陶芸	利用者の適性に合わせ、ひも作り、型作りなど様々な技法を用いて作品の制作に携われるように配慮した。釉薬の塗布、ガス窯で焼成し、個性的な作品作りを行った。完成した作品は施設内で展示販売を行った。
		手工芸	・利用者の能力に合わせて取り組める手工芸を取り入れて行った。 ・ビーズ等で指輪、プレスレッド、ネックレス等を制作し、施設の祭りで展示販売を行った。
		図画工作	季節や行事に合わせて描画や展示物の制作等を行い、自由に創作する楽しさ、達成感を味わった。
	生 活 学 習 レ ク リ エ ー シ ョ ン	クッキング	季節感のあるお菓子や飲み物等を作った。また、誕生会で食べるお菓子を生活班と一緒に手づくりし、誕生月ごとに利用者をお祝いした。
		月・季節 行事	誕生会や茶話会、季節の小行事等を実施して、変化のある生活作りに取り組んだ。
		園外活動	感染対策を講じた上で、作業班のみや生活班と混成の小グループで外出し、散策や社会体験を行った。
		園芸	園の畑にサツマイモ・かぼちゃ・落花生等を植え、獲れた野菜で収穫祭を行い、自分たちで育て、収穫する喜びを体験した。
		軽スポーツ	・散歩やダンス等楽しく体を動かせる場面を多く取り入れた。 ・地域のインディアカ愛好会との交流は引き続き中断しているが、集会室でのレクリエーション活動でスポーツの楽しさを体験しながら交流を図った。
生 活 班	個 別 活 動	・利用者一人ひとりの障がいの状態、嗜好や適性に合わせ、楽しく取り組める軽作業や指先を使うビーズ通しやパズル作り等の活動を行った。 ・施設周辺の散歩等により、体力作りや健康増進に努めた。	
	体操・ダンス	音楽、レクリエーション、運動等を組み合わせて、楽しみながら体を動かし、身体機能の活性化を図った。	
	機 能 訓 練	身体機能の維持・向上を図るため、個人ごとに必要な訓練を行った。	
	創 作 活 動	陶芸	利用者の適性に合わせ、型作り等の技法を用いて作品を作り、完成した作品は施設の祭りで販売し、販売を体験した。
		手工芸	・ビーズ手芸に取り組み、ネックレスやプレスレッド等の作品を作った。 ・パーラービーズでコースター等の作品を作り、施設の祭りで展示販売を行った。
	生 活 学 習 レ ク リ エ ー シ ョ ン	月・季節 行事	・誕生会や茶話会、季節の小行事を実施し、季節感のある生活作りに取り組んだ。 ・園の畑にサツマイモ、かぼちゃ、にんにく等を植え、植物の生育や収穫の喜びを体験するとともに、採れた野菜で収穫祭を行った。
		園外活動	感染対策を講じた上で、生活班のみや作業班と混成の小グループで外出し、散策、買い物、レストランでの食事等の社会体験を行った。
		クッキング	誕生会で食べるお菓子を作業班と一緒に手づくりし、誕生月ごとに利用者をお祝いした。また、季節に応じた菓子を生活班単独でも作った。
		軽スポーツ	・散歩やダンス等楽しく体を動かせる場面を多く取り入れた。 ・地域のインディアカ愛好会との交流は引き続き中断しているが、集会室でのレクリエーション活動でスポーツの楽しさを体験しながら交流を図った。
		レクリエーション	室内でできる簡単なボウリングやサッカー等のゲームを行い、楽しく体を動かした。

⑦ 全体活動

花見や年末慰労会等の行事を園全体及び保護者を交えて行い、親睦と相互理解を深めた。

⑧ 園外活動

社会参加を目的として、小グループで施設外に出かけ、社会経験を積んだ。また、保護者も同伴で日帰りの社会見学旅行を実施した。

⑨ 健康衛生管理

- 嘱託医との連携を図りながら、利用者の健康管理に努めるとともに、専門医による各科検診（内科、眼科、耳鼻科、歯科）を年2回実施した。
- 利用者全員を対象に施設内で山形市の総合健診（特定健診・がん検診等）と同様の集団健診を実施した。
- 看護職員及び担当職員を中心に丁寧な健康観察を行い、指浴等による清潔の保持、体調不良や健康状態の把握、疾病やケガの予防に努めた。また、必要に応じて医療機関への受診に同行し、既往症の把握、医療機関や家庭との連携に努めた。
- 毎月1回体重・血圧測定を行い、利用者の健康状態の管理に努めた。

⑩ 給食の状況

- 利用者に好まれる内容と栄養のバランスの両立に努め、季節感のある献立や利用者が選択できる希望献立等により、豊かな食事の提供に努めた。また、変化する利用者の咀嚼、嚥下の状態に合わせた形態（普通食、粗みじん、刻み、ペースト等）で提供した。
- 給食委員会を毎月1回開催し、献立内容と利用者の食事摂取状況等を確認することで提供内容の充実を図った。
- 偏食、肥満、糖尿病等の成人病予防を考慮した食事の提供を行い、必要に応じて家庭との連携を図った。

⑪ 時間外預かり支援（レスパイト）サービスの実施

利用者及びその家庭に対する支援として、通常の営業時間を延長して支援を行った。

- 午前の預かり時間（8：00～8：30） 延べ利用者数 115人
- 平日・午後の預かり時間（17：15～18：30） 延べ利用者数 290人
- 土曜・午後の預かり時間（12：30～18：30） 延べ利用者数 104人

⑫ 防災及び事故防止対策

- 総合防災訓練（年2回）と火災や地震を想定した避難訓練（月1回）を実施して災害時に備えた。訓練は無理のない内容・日程で安全性に配慮し計画を立て実施した。
- 登降園時の安全に配慮し、家庭と連携を密にしながら事故の防止に努めた。

⑬ 苦情解決

- モニタリング等の面談で利用者、家族、関係機関と関係を築き、日々の連絡を重ねたことで特に苦情はなかった。
- 利用者満足度アンケートを年2回実施し、「とても満足している」「まあ満足している」との回答が1回目85%、2回目は91%と良好な評価が得られた。

⑭ 職員研修

職員の資質向上を図るため、以下の研修に参加した。

ア 職場内研修

- 救命救急法研修（乳幼児） 6月21日 3名
- 救命救急法研修（成人） 6月28日 5名
- 虐待防止委員会研修 3月28日 5名

イ 職場外研修（※はオンライン研修）

- 東北地区知的障害者福祉協会総会・施設長管理者連絡協議会 6月19日～20日 1名
- 令和5年度全国知的障害者福祉協会施設長等会議 ※ 8月7日～8日 1名
- 東北地区知的障害者福祉協会専門研修 9月14日～15日 1名
- 山形県知的障害者福祉協会権利擁護推進委員研修 ※ 9月20日 1名
- 山形県知的障害者福祉協会権利擁護セミナー ※ 1月25日 1名
- 山形市虐待防止研修 ※ 2月21日 1名
- その他 3件 4名

⑮ 地域社会との交流

- 村山総合支庁、村山保健所での収穫物・作品の展示販売（年6回）

⑯ 保護者との連携

- 毎日の連絡帳により情報交換と相互理解を深め、必要に応じて電話や家庭訪問等により連携を密にし、施設と家庭が一体的かつ継続的に支援ができるように努めた。
- まんさく丘内での展示販売（12月の年末慰労会で実施）

⑰ 実習生等の受け入れ

- 介護実習 2名
- 施設実習（看護学生） 6名
- 介護等体験実習 2名

6 日中短期入所事業所 恵光園

在宅で生活する障がい者が、家族等からの見守りを受けることができない場合に、日中の一定時間にお預かりすることにより、本人及び家族の負担軽減を図った。

年間延べ利用者数は68人で目標の100名を下回った。新型コロナウイルス感染者の発生による利用控えと利用者の体調不調によるキャンセルにより利用者が減少した。昨年度に続き、平日に他事業所を利用した後に本事業所を利用する傾向が続いている。

① 利用状況

事業所名		日中短期入所事業所恵光園										利用定員		5名／日	
事業種別		地域生活支援事業（日中一時支援事業）										目標値		年間延利用者数100名	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延利用者数	4時間未満(人)	8	7	6	2	3	7	3	1	2	3	2	1	45人	3.8人
	4～8時間(人)	1	1	2	2	1	1	2	1	2	1	1	2	17人	1.4人
	8時間以上(人)	0	2	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	6人	0.5人
	計	9	10	8	4	5	8	6	2	4	6	3	3	68人	5.7人
	前 年 度	8	7	9	8	6	5	8	9	12	5	7	10	94人	7.8人

7 指定共同生活援助事業所 こもれび

手厚い支援が必要な入居者が安定した日常生活を営むことができるよう個別支援計画に基づき、食事、入浴、排せつ介助等の生活全般の支援を提供した。

入居者の入退所はなく、稼働率は82.8%で昨年度とほぼ同じであった。新型コロナウイルスの感染者が発生し、稼働率が低下した月があった。今後は稼働率のアップに努めながら、こもれびで提供する日中活動の内容の充実を図る。

① 利用状況

事業所名		共同生活援助事業所こもれび											入居定員		10名／日	
事業種別		障害福祉サービス（日中サービス支援型共同生活援助）											目標値		稼働率84%	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
本 年 度	入 居 者 数(人)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120人	10.0人	
	充 足 率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	－	100.0%	
	営 業 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366日	－	
	延入居者数(人)	252	257	256	264	225	259	270	262	261	250	206	270	3,032人	252.7人	
	1日平均利用(人)	8.4	8.3	8.5	8.5	7.3	8.6	8.7	8.7	8.4	8.1	7.1	8.7	－	8.3人	
	稼 働 率(%)	84.0	82.9	85.3	85.2	72.6	86.3	87.1	87.3	84.2	80.6	71.0	87.1	－	82.8%	
前 年 度	入 居 者 数(人)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120人	10.0人	
	充 足 率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	－	100.0%	
	延入居者数(人)	238	249	267	269	258	229	230	264	260	250	237	255	3,006人	250.5人	
	稼 働 率(%)	79.3	80.3	89.0	86.8	83.2	76.3	74.2	88.0	83.9	80.6	84.6	82.3	－	82.4%	

② 入居の状況 (令和6年3月31日現在)

入居定員	男	女	入居者数
10人	4人	6人	10人

③ 年齢構成 (令和6年3月31日現在)

年 齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計	平均年齢
人 数	0人	0人	1人	4人	3人	2人	0人	10人	50.4歳

④ 入居者の日中活動先 (令和6年3月31日現在)

活動場所	生活介護 (恵光園)	生活介護 (恵光園以外)	就労継続支援B型	地域生活支援事業 (生活訓練)	無し	合 計
人 数	8人	0人	1人	0人	1人	10人

⑤ 入居者への支援

入居者の心身の状態や障がいの状況に応じた個別支援計画を作成し、職員が情報を共有しながら必要な支援を行った。

⑥ 食事の提供

食事はまんさくの丘厨房で調理し、グループホームに運搬して提供する体制であるため、まんさくの丘栄養士と連携し、入居者の食事状況、健康状態に応じて提供した。

⑦ 健康及び衛生管理

- 毎日の健康観察や服薬の管理を実施し、入居者の健康管理に努めた。また、必要に応じて医療機関を受診し、医師等の指示に従い必要な支援を行った。
- 新型コロナウイルスについては、消毒、手洗い等の感染防止対策の徹底、検査キットの

活用による早期発見に努めた。

⑧ 関係機関との連携

日中活動の場となる他事業所や相談支援事業所等と連携し、情報交換、担当者会議を行い、入居者の生活や日中活動の安定を図った。

⑨ 家庭との連携

必要に応じて電話や自宅に帰省する際に必要な情報の共有や意見の交換等を行い、家庭と連携しながら入居者への支援の向上に努めた。

⑩ 防災及び事故防止対策

総合訓練（2回）及び夜間を想定した避難訓練（1回）を実施するとともに、消火器・スプリンクラー等の防災設備の確認を行い、非常時の体制の維持に努めた。

⑪ 苦情解決

寄せられた意見・要望等については、できる限り対応した。

⑫ 職員研修

各種研修会に参加し、職員の資質向上を図るとともに、まんさくの丘で開催された虐待防止委員会研修に参加し、障がい者の権利擁護・虐待防止等について職員の意識を高めた。

8 指定短期入所事業所こもれび

グループホームこもれびに併設された短期入所1名分については、グループホーム入居者が新型コロナウイルスに感染したため、受け入れを一時中止したものの、年間延べ利用者数は491人で前年度の321人から170人増加した。今後も登録者は増加する見通しである。

緊急入所用1名分（山形市障がい者地域生活支援拠点等整備事業業務受託分）は、山形市に居住・登録した障がい者の方を対象に、緊急入所又は体験的利用に供したが、年間延べ利用者数は84人で前年度から増加した。緊急入所後の移行先の決定が滞るケースも見られた。

① 利用状況

事業所名		短期入所事業所こもれび									利用定員		短期入所1名、緊急入所1名			
事業種別		障害福祉サービス（短期入所）									目標値		年間利用者数240人（緊急入所除く）			
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
短期入所	延利用者数(人)	42	45	42	45	28	47	46	42	46	37	25	46	491人	40.9人	
	前 年 度	24	23	30	30	32	7	27	31	24	26	24	43	321人	26.8人	
緊急入所	延利用者数(人)	0	0	5	0	0	22	29	20	0	0	0	8	84人	7.0人	
	前 年 度	0	0	0	0	0	0	5	3	4	9	0	0	21人	1.8人	

9 宿泊型自立訓練事業 蔵王通勤寮

利用者の就労・生活の安定と地域生活への移行を推進するため、就労事業所、関係機関等と連携を図りながら、個別支援計画に基づき支援を行った。

新型コロナウイルスが5類感染症に移行されたことから、これまで中止していた行事を徐々に再開し、利用者の生活の満足度を上げることができた。

延利用者数は、前年度比36名減の4,801名で稼働率は65.6%で目標値の80%を下回った。

利用者数は2名減、2名増で増加とならなかったことに加え、約2か月の入院となった利用者やグループホームに3週間の体験入居をした利用者がいたことなどが要因となった。

① 利用状況

事業所名		蔵王通勤寮										利用定員		20名	
事業種別		障害福祉サービス（宿泊型自立訓練）										目標値		平均稼働率80%	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
本 年 度	営 業 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366日	－
	延利用者数(人)	390	396	390	417	422	395	403	390	399	395	384	420	4,801人	400.1人
	1日平均利用(人)	13.0	12.8	13.0	13.5	13.6	13.2	13.0	13.0	12.9	12.7	13.2	13.5	－	13.1人
	稼 働 率(%)	65.0	63.9	65.0	67.3	68.1	65.8	65.0	65.0	64.4	63.7	66.2	67.7	－	65.6%
前 年 度	延利用者数(人)	391	397	389	404	434	420	434	394	403	398	372	401	4,837人	403.1人
	1日平均利用(人)	13.0	12.8	13.0	13.0	14.0	14.0	14.0	13.1	13.0	12.8	13.3	12.9	－	13.3人
	稼 働 率(%)	65.2	64.0	64.8	65.2	70.0	70.0	70.0	65.7	65.0	64.2	66.4	64.7	－	66.3%

② 入退所の状況 (令和6年3月31日現在)

令 和 4 年 度 末 在 籍 者	年 度 中 の 増 減			令 和 5 年 度 末 在 籍 者
	入 所	退 所	増 減	
14人	2人	2人	0人	14人（男11人女3人）

③ 年齢構成 (令和6年3月31日現在)

年 齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計	平均年齢
人 数	0人	6人	1人	2人	3人	2人	14人	41.4歳

④ 利用者の日中活動区分 (令和6年3月31日現在)

就労形態	一般就労	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労移行支援	生活介護	合 計
人 数	6人	1人	6人	0人	1人	14人

⑤ 自立能力向上への支援

- 基本的な生活習慣、身辺処理能力及び金銭管理能力の向上を図る支援を行った。
- 自治会活動の充実を図るための支援（年間計画、生活用品購入、当番活動等）を行った。
- 相談支援事業所との契約の支援を行った。

⑥ 就業指導及び職場定着への支援

- 就労事業所及び関係機関との連携を強化し、職場定着を目指した訪問等を行った。

⑦ 食生活への支援

- 給食委員会を毎月1回実施し、献立内容と利用者の食事摂取状況を把握するとともに、年間計画に基づき季節感のある給食の提供を行った。
- 利用者の嗜好に関する調査を毎月行い、希望を集約して実際の献立に反映させた。
- 定期的に栄養士が食事の実態を確認し、必要に応じて食事指導及び助言を行った。
- 食生活及び調理に関する知識と技能を高める支援を行った。

⑧ 余暇活動への支援

新型コロナウイルスの5類感染症への移行を受け、感染対策を講じた上で余暇活動や行事の回数を増やし、外食（不定期）、余暇活動（不定期）、社会見学旅行（10月）、クリスマス会（12月）を開催し、できる限り生活の質の向上を図った。

⑨ 健康及び衛生管理

・健康診断等の実施状況

検診内容	健康診断（一般）	健康診断（成人病）	子宮・乳がん検診
受診者数	13人	8人	1人

- ・健康診断の結果、精密検査や治療を要するケースには迅速に対処した。異常が認められた利用者には再検査を行った。
- ・感染症や食中毒の予防のため、検便を実施した。（職員：毎月、利用者：年6回）
- ・病気等の予防、通院及び治療など自己管理能力の向上を図る支援を行った。
- ・新型コロナウイルス等の感染防止のため、利用者に手洗い・手指消毒等の感染防止対策の継続を求めた。
- ・新型コロナウイルスのワクチン接種に関する説明、実施の支援を行った。
- ・新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染症罹患者はいなかった。
- ・通院・入院の状況

受診内容による分類	内科	精神科	てんかん	脳神経外科	歯科	外科	皮膚科	眼科	耳鼻科	整形外科又は接骨院	婦人科	泌尿器科
通院治療（回）	69	59	5	2	31	4	20	9	22	15	3	12
うち実人数（人）	9	7	2	2	3	1	7	4	6	3	1	1
入院治療（日）	0	58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち実人数（人）	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑩ 災害防止対策

- ・総合防災訓練（2回）及び防災研修（1回）を実施した。
- ・まんさくの丘全体で実施する避難訓練に参加した。（月1回）
- ・発電機の操作及び作動確認を行った。（2回）

⑪ 関係機関・保護者との連携

- ・相談支援事業所、日中活動先等とのケース検討会
- ・就業・生活支援センター、相談支援事業所及び就労事業所との連携
- ・三恩会総会の開催

⑫ 苦情解決

- ・利用者にアンケート調査を実施した。（10月、3月）
- ・今年度も苦情はなかった。

⑬ 職員研修

ア 職場内研修

- ・救命救急研修（乳幼児） 6月21日 1名
- ・救命救急研修（成人） 6月28日 2名
- ・虐待防止委員会研修 3月28日 1名

イ 職場外研修（※はオンライン研修）

- ・山形県知的障害者福祉協会総会 ※ 4月25日 1名
- ・施設長等研修会及び山形県障がい福祉課長との懇談会 7月21日 1名

- ・発達障害理解促進・指導力向上セミナー ※ 7月29日 1名
- ・山形県サービス管理責任者研修 11月15日～16日 1名
- ・地域移行にかかる研修会 ※ 1月16日 1名
- ・山形市福祉施設職員等研修会 2月22日 1名
- ・その他 4件 4名

10 指定共同生活援助事業所 蔵王

個別支援計画に基づき、金銭管理、居室の清掃等の生活環境の改善、就労事業所と連携した職場定着を図るため支援を行った。

令和5年度は、新規の入居者はおらず、充足率は91.7%であった。引き続き入居者の確保に向けて調整等を進めていく。

入居者の高齢化に伴い、健康に問題を抱えるケースが増えているため、保護者や世話人、医療機関、就労先と連携し、安定した生活を継続できるよう支援を行った。

① 利用状況

事業所名		共同生活援助事業所蔵王（グループホーム6箇所：定員各4名）										入居定員		24名	
事業種別		障害福祉サービス（外部サービス利用型共同生活援助）										目標値		充足率100%	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
本年	入 居 者 数(人)	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264人	22.0人
	充 足 率(%)	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	－	91.7%
	営 業 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366日	－
	延入居者数(人)	660	677	660	682	669	660	681	660	679	676	638	679	8,021人	668.4人
	1日平均利用(人)	22.0	21.8	22.0	22.0	21.6	22.0	22.0	22.0	21.9	21.8	22.0	21.9	－	21.9人
	稼 働 率(%)	91.7	91.0	91.7	91.7	89.9	91.7	91.5	91.7	91.3	90.9	91.7	91.3	－	91.3%
前年度	入 居 者 数(人)	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	22	275人	22.9人
	充 足 率(%)	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	91.7	－	95.5%
	延入居者数(人)	690	708	690	713	713	690	713	690	713	701	644	695	8,360人	696.7人
	稼 働 率(%)	95.8	95.2	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	94.2	95.8	93.4	－	95.4%

② 入居の状況 (令和6年3月31日現在)

名 称	飯 田 荘	みどり荘	さくら荘	わかば荘	あすなろ荘	わかくさ	合 計
入居人数	4人	4人	3人	3人	4人	4人	22人(男11人・女11人)

③ 年齢構成 (令和6年3月31日現在)

年 齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計	平均年齢
人 数	0人	0人	3人	7人	7人	5人	0人	22人	50.7歳

④ 入居者の就労区分 (令和6年3月31日現在)

就労形態	一 般 就 労	就労継続支援A型	就労継続支援B型	生 活 介 護	無	職 合	計
人 数	15人	2人	4人	0人	1人		22人

⑤ 入居者に対する支援（延件数）

- ・社会生活上の相談及び支援（296回）
- ・余暇活動の支援（3回）
- ・職場訪問及び就労支援（45回）

- 関係機関との連携（54回）
 - 対人関係の調整（17回）
 - 買物等の支援（50回）
 - 問題行動への対応（10回）
- ⑥ 世話人に対する指導
相談及び業務指導（69回）
- ⑦ 健康及び衛生管理
- 健康管理に関する支援（124回） ※新型コロナウイルスのワクチン接種を含む。
 - 医療機関への受診支援（77回）
 - 入居者の健康診断の実施状況

検診内容	健康診断（一般）	健康診断（成人病）	子宮・乳がん検診
受診者数	22人	19人	6人

- ⑧ 地域生活関連
地域生活への適応に関する支援（6回）
- ⑨ 関係機関・保護者との連携
相談支援事業所との連携（74回）
三恩会総会の開催
- ⑩ 災害防止対策
- 蔵王通勤寮で実施した総合防災訓練に参加した。（2回／10月、2月）
 - グループホームごとに防災設備の説明、消火訓練、避難経路の確認を行った。（2月）
- ⑪ 苦情解決
今年度は苦情がなかった。

11 指定相談支援事業所まんさく

障がいのある人の自立した日常生活、社会生活を実現できるよう支援するため、サービス提供事業者や市町村、教育機関等の関係機関と連携しながら、日常生活や必要なサービスの利用等の全般的な相談に応じ、サービス利用計画の作成、申請等の支援を実施した。

また、山形市から相談支援事業を受託した事業所として、山形市自立支援協議会の運営等を行ったが、受託業務である市内相談支援事業所の人材育成や相談体制の強化への取り組みについては、計画相談支援の業務対応に追われ、対応が不十分な状態が続いている。

令和5年度は、特定相談97件、障害児相談338件で目標値を下回った。現行の人員体制では新規相談の受け入れが難しい時が多々あった。特定相談継続支援は142件、障害児相談継続支援は267件で目標値を上回り、事業所で過去最大の実績件数となった。今後はより細やかなモニタリング・相談対応を目指していく。

① 新規相談件数・連絡調整件数

事業所名	相談支援事業所まんさく								利用定員		一名			
事業種別	特定相談支援、障害児相談支援、一般相談支援								目標値		特定105件、特定継続105件、 障害児360件、障害児継続175件			
項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
特 定 相 談(件)	5	8	6	8	10	8	11	4	11	6	13	7	97件	8.1件
特定相談継続支援(件)	13	8	8	13	10	11	9	10	11	8	8	33	142件	11.8件
障 害 児 相 談(件)	65	23	17	22	25	20	26	35	33	30	20	22	338件	28.2件
障害児相談継続支援(件)	24	25	27	17	20	30	14	7	21	21	23	38	267件	22.3件

② 新規相談件数（形態別）

区 分	平 日	時間外	休 日	合 計
電 話	286	0	0	286件
来 所	84	0	0	84件
訪 問	21	0	0	21件
そ の 他	0	0	0	0件
合 計	391件	0件	0件	391件

③ 相 談 者

区 分	件 数	区 分	件 数
本人・家族等	210	行政機関	6
民生委員	0	教育委員会	1
ケアマネジャー	2	山形市からの依頼	2
サービス提供事業所	161	その他（知人等）	1
医療機関	8	合 計	391件

④ 主な相談内容

内 容	件 数	内 容	件 数	内 容	件 数
サービス利用支援	2,561	保育・教育支援	697	雇用・就労支援	254
障がい・病状理解支援	225	家族・人間関係支援	48	社会参加・余暇活動支援	31
健康・医療支援	238	家計・経済支援	105	権利擁護・成年後見関係	9
不安解消・情緒支援	640	生活に関する支援	27	虐待に関する支援	5
そ の 他	0			合 計	4,840件

⑤ 相談後の連絡調整

区 分	件 数	区 分	件 数
本人・家族等	1,984	医療機関	108
民生委員・近隣関係	11	行政機関	734
ケアマネジャー	53	その他	215
サービス提供事業所	2,415	合 計	5,520件

⑥ 申請手続き

項 目	申請・処理件数	項 目	申請・処理件数
介護給付費支給申請	121	サービス等利用計画申請(者)	94
訓練等給付費支給申請	9	障がい児支援利用計画申請(児)	326
地域生活支援事業申請	36	福祉タクシー券・給油券	44
手帳申請関係	6	その他	8
自立支援医療請求	2		
障がい児通所給付費支給申請	323	合 計	969件

⑦ 障がい種別

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	難 病	その他	合 計
27	119	14	109	0	118	387人

⑧ カファレンス等の開催件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4	9	5	11	9	4	8	7	9	9	5	11	91件

⑨ 地域との連携（※はオンライン会議）

・蔵王地区地域包括支援センターネットワーク連絡会	5月24日	1名
・山形市高齢者等消費者被害防止ネットワーク会議	8月30日	1名
・山形県地域生活定着支援センターネットワーク会議	11月7日	1名
・村山地域精神障がい者地域移行・地域定着支援推進会議 ※	12月4日	1名
・山形市相談支援センター合同会議	1月22日	2名
・村山地域医療的ケア児支援連絡会 ※	2月14日	1名

⑩ 職員研修（※はオンライン研修）

・山形県発達障がい者支援センター研修会	5月31日	1名
・サービス管理責任者研修（更新研修）	7月13日	1名
・学校教育とてんかん ※	8月1日	1名
・東北主任相談支援フォローアップ研修	9月15日	1名
・山形県知的障害者福祉協会児童発達支援部会研修会	12月15日	1名
・精神障害者支援の障害特性と支援技法を学ぶ研修	1月26日	1名

IV 児童養護施設 山形学園

令和5年度は、児童の人権を守り、安定した環境の中で児童一人ひとりが安心して心身共に健やかに過ごし、将来退園後の自立生活に向けて児童の力を育み、自信を持って社会へ巣立つことができるよう支援にあたった。

新型コロナウイルスが5類感染症に移行し、感染状況に落ち着きが見られたことから、児童の生活を徐々にコロナ禍前に戻し、社会体験の機会を確保できるよう努めた1年であった。

ユニット旅行は、仙台方面への公共交通機関を利用した行程でユニット毎に児童の希望を取り入れた内容で実施し、満足度の高いものとなった。ふれあい祭りやもちつき会は規模を縮小したが、外部の方を招き会食を共にする形で実施できた。社会との繋がりや多くの支援により施設運営ができていることを改めて実感することができた。

また、職員の仕事と家庭生活の両立を図るため、これまでの泊まり勤務（宿直勤務）から夜勤を導入し試行した結果、一定の成果が得られたことから、新年度から正式に導入することとした。

今後も児童の声に耳を傾け寄り添いながら、ユニット制を活かした支援に努めていく。

① 入退所の状況

事業所名		山形学園										入所定員		40名	
事業種別		児童養護施設										数値目標		－	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
本年度	入所児数(人)	30	30	32	32	32	32	32	33	32	33	33	30	381人	31.8人
	新規入所(人)	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	1	5人	0.4人
	退所児数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	5人	0.4人
	入所率(%)	75.0	75.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	82.5	80.0	82.5	82.5	75.0	－	79.4%
児童内訳	高校生	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	5	93人	7.8人
	中学生	7	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	93人	7.8人
	小学生	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	142人	11.8人
	幼児	4	4	4	4	4	4	4	5	4	5	5	6	53人	4.4人
	3歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人	0.0人
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人	0.0人
	計	30	30	32	32	32	32	32	33	32	33	33	30	381人	31.8人
前年度	入所児数(人)	32	32	32	32	32	32	32	33	33	33	33	30	386人	32.2人
	入所率(%)	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	82.5	82.5	82.5	82.5	75.0	－	80.4%

※入所児童数は、毎月末日現在の人数

② 入所理由区分

(令和6年3月31日現在)

虐待	保護者の疾患等	経済的理由(破産等)	その他	合計
24	0	0	6	30人

③ 障がい等区分

(令和6年3月31日現在)

知的障がい児	注意欠陥／多動性障がい (ADHD)	広汎性発達障がい
6人	1人	1人

④ 退所児童状況

ア 自立 4名(県内就職2名、県内進学2名)

イ 家庭復帰 2名

⑤ 児童処遇

ア 年少児

- 基本的生活習慣の確立及び遊びを通して心身両面の育成に取り組んだ。
- 幼稚園を活用しながら、集団生活への適応力の向上を図った。
- 幼稚園入園前の幼児は、地域の子育てサロンや幼稚園の遊びの教室に参加し、地域との交流及び集団参加の体験を増やした。

イ 小学生

- 基本的生活習慣の習得に努めた。
- 余暇活動や遊びを通して、情緒の安定を図り心身両面の育成に努めた。
- 学校との日常の相互連絡や連絡会(年2回)等を通して、生活と学習の向上につなげた。
- 長期休みに子ども達の自主グループでの学習会を設け、効果が見られた。
- 居室単位の活動やグループ活動を通して、協調性や自主性の高揚につなげた。

ウ 中学生・高校生

- 部活動と学業の両立が図れるように指導にあたった。
- 進路指導については学校等と連携し、進路目標を立て意識の高揚を図った。
- 基本的生活習慣の習得を図り、社会性・協調性及び自立意欲の向上に努めた。
- スポーツ活動等を通して、情緒の安定を図り心身両面の育成につなげた。
- 高校卒業後の進路については、学校や関係者等と連携を図りながら十分な情報提供を行い、本人の意思を尊重しながら進めた。
- 高校3年生や高学年児童に対して、フレッシュマンスタート講座5回を実施した。

〈フレッシュマンスタート講座〉

	講座内容	講師等
第1回	法律教室	山形県青年司法書士会 小関弾 氏他
第2回	ライフデザイン	MOTHER design わだゆきこ 氏
第3回	性と生	助産師 斉藤ひとみ 氏
第4回	ふれあいルームで一人暮らし体験	山形学園 職員・栄養士
第5回	公的な手続きの体験	山形学園 職員

エ 全児童

- 個々の児童の意見が尊重される環境作りとその対応の充実を図った。
- 小中学校でタブレット端末での学習が導入され、児童一人ひとりがタブレットを持ち帰って課題に取り組む機会が増えたことに伴い、端末の使い方や学習の支援を行った。
- 調理実習やおやつ作りを実施し、生活技術の習得と変化のある生活作りに努めた。
- 感染防止対策を徹底した上で園外活動を実施し、社会体験の機会を確保した。
- 児童相談所や関係機関との連携を図り、処遇の向上に努めた。
- 以下の研修に参加した。

○いのちの学習（誕生学） 3月21日 12名参加

○生きるためのいのちの教育（紙芝居） 8月22日 12名参加

⑥ 健康衛生管理

ア 感染症予防対策を徹底し、児童の健康維持と感染症の予防に努めた。

イ 健康診断を年2回実施した。

ウ 毎日の健康観察により、疾病の早期発見と早期治療に努めた。

エ 児童の検便を年3回実施し、感染症の予防に努めた。

オ 医療状況

区 分	内科	外科	皮膚科	歯科	整形外科	耳鼻科	眼科	泌尿器科	精神科	計
服薬(実人数)	23	1	25	8	8	24	18	1	5	113人
通院(延人数)	82	0	109	15	30	44	24	1	24	329人
入院(延人数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人
計	105	1	134	23	38	68	42	2	29	442人

⑦ 給食の状況

ア より家庭的な雰囲気になるように、献立、食器、提供の仕方などを工夫した。

イ 年齢に適した栄養の供給に努めた。

ウ 隔月に給食委員会を開き、適切な食事内容の検討や食生活への興味や関心を高めた。

エ 衛生的な食事環境作りに配慮し、正しい食習慣の確立に取り組んだ。

オ 食事作り、配膳、食器洗い、米とぎなど子ども達がお手伝いする機会を増やした。

カ 行事食、郷土食、会食、外食、希望献立等を実施し、楽しく変化に富んだ食生活に努めた。

キ 手作りおやつを実施し、一緒に作る場面を増やし手作りの良さを児童に伝えた。

ク ユニット調理を実施し、生活技術の向上を図った。(土・日・長期休み)

ケ 畑で作った野菜を食事に使用するなど食育に力を入れた。

⑧ 行 事

生活の潤いと集団生活への適応や協調性の向上を図るために次の行事を実施した。

月	行 事 内 容
4月	職員歓迎会、入学祝い
5月	端午の節句、バーベキュー
6月	蔵王クリーン作戦
7月	七夕
8月	収穫祭、グループ旅行
9月	お月見 日帰り旅行
10月	ふれあいまつり
11月	七五三、日帰り旅行
12月	クリスマス会
1月	だんご木刺し、もちつき会
2月	節分、スキー教室
3月	雛まつり、退園生激励会、卒業祝い、職員送別会

⑨ 地域活動と社会資源の活用

ア 地域交流を目的とした行事は規模を縮小して施設内で実施した。地元の行事への参加や介護施設でのボランティア活動などは感染防止の観点から昨年度に続き実施できなかった。

イ ボランティアや慰問等の受け入れ

1 個人 9 件の慰問の受け入れを行った。

ウ 実習生の受け入れ

- ・資格取得のための実習 大学生 4 名、短期大学生 6 名
- ・介護体験実習 大学生 4 名

⑩ 家族との関係作り・調整

ア 家庭へのファミリー・ケースワークを行い、早期家庭復帰が可能か検討を重ねた。

イ 家族も一緒に参加できる行事等では、親子関係の再構築や家族との関係作りに努めた。

ウ 夏休みや冬休みなどに、家庭への一時帰省を実施した。

エ 家族等との交流のない児童には、家庭生活体験事業を実施した。(3 家庭に 4 名の児童、延べ 25 日)

オ 家庭訪問 8 回

⑪ 里親支援

- ・学園児童の里親委託 0 件
- ・里親サロン 7 回 (延べ 35 名)
- ・家庭訪問 9 回

⑫ 職員会議・委員会等

運営会議 12 回、職員会議 13 回、処遇会議 3 回、フロアー会議 13 回、給食委員会 6 回、ケース検討会 12 回、ケースカンファレンス 5 回、心理療法士・職員に対する専門医の助言等 (心理療法スーパービジョン) 10 回 (オンライン会議)

⑬ 職員研修

職員の資質向上のため、オンラインを利用した研修に積極的に参加した。また、感染症の予防や拡大防止のため、感染症に関する研修を実施した。

ア 内部研修会

- ・新採職員研修 8 月 29 日
- ・CAP 大人ワーク 12 月 4 日
- ・児童精神科医による研修 2 月 2 日

イ 外部研修会 (※はオンライン研修)

- ・安心安全レベルアップ研修 5 月 24 日 2 名
- ・児童福祉関係新任職員研修 6 月 12 日～13 日 2 名
- ・東北ブロック児童養護施設研究協議会 6 月 14 日～15 日 3 名
- ・里親研修 7 月 1 日 1 名
- ・山形県児童養護施設協議会宿泊研修会 10 月 26 日～27 日 4 名
- ・虐待防止セミナー ※ 2 月 27 日 15 名
- ・その他 6 件 9 名

⑭ 災害防止

ア 防災計画に沿って定期的に総合防災訓練・消火訓練（２回）、避難訓練（12回）を実施した。

イ 自転車の安全点検を行った。

ウ 登下校や外出時の事故防止のため、交通安全教育を実施した。

⑮ 心理療法の実施

ア 実施児童数 24名

イ 心理療法等の回数

・心理療法 861回 ・セカンドステップ 17回 ・サードステップ 11回 計889回

ウ 対象児童の年齢・主訴別数

	身体的虐待	ネグレクト	心理的虐待	その他	計
3歳～学齢前	1	1	3	0	5人
小学生	5	2	3	2	12人
中学生	3	3	1	1	8人
高校生、その他	1	4	0	3	8人
計	10	10	7	6	33人

⑯ 苦情解決

要望や意見はあったが、その都度話し合いで解決することができた。

⑰ こどもショートステイ事業（山形市委託事業）

家庭を取り巻く環境が複雑化している中で、子育て支援事業の一環として実施し、令和5年度は5名（延40日）の利用実績があった。

V 高齢者総合福祉施設すげさわ

理念である「入所者・利用者、誰もが安心できる暮らしの実現」に向けて業務にあたった。
経営的には、「すげさわ」の各事業所が介護報酬による経営の維持に取り組んだ。

① 介護保険制度に対応し、次の事項に取り組んだ。

- ア 介護報酬による経営の維持
- イ 給付管理と介護報酬事務の正確化
- ウ 利用者の確保
- エ サービスの質の向上
- オ ケアプラン・リハビリプラン・栄養マネジメント・L I F Eの適正度と実施度の向上
- カ 地域支援機能の強化

② 地域との交流

夏祭り及び敬老会は、新型コロナウイルスの感染防止のため、ご家族や外部への案内を自粛し、施設内で入所者と職員のみで開催した。

③ 地域貢献活動

買い物支援バスの運行、すげさわ団地内市道のごみ拾い、市有地の除草、資源回収への協力等を実施した。

④ 地域との連携

ア 地区会議への参加

新型コロナウイルスの感染防止を徹底しながら参加した。

イ 地区内学校の入学式への参加

コロナ禍以降案内がないため、参加はなかった。

⑤ 地区自治会、近隣施設との連携

ア 防災協力を図るため、防災訓練を実施したが、地区等への参加案内は自粛した。

イ 本沢地区と福祉施設との災害時相互応援協定連絡会議は、新型コロナウイルスの感染防止ため開催見送りとなった。

⑥ 「すげさわ経営健全化プロジェクト会議」の開催

すげさわの経営状況の情報共有、経営安定化に向けた事業の検討のため、各部所より中堅役職員の会議を開催した。

⑦ 「すげさわ経営会議」の開催

総合福祉施設として、有機的な連携を図ることや経営状況を共有するため、各部所幹部職員の会議を開催した。

⑧ 職員研修の実施

職員の資質の向上を図るため、次の研修を実施した。

ア 内部研修（※は新型コロナウイルスの感染防止のため書面開催）

実施月	研 修 内 容	講 師 等
4 月	事業計画書説明 ※	研修・広報委員会
5 月	救命救急（心肺蘇生・A E Dの使用）※	防災委員会

6月	食中毒予防について ※	田中主任栄養士
7月	褥瘡について	褥瘡リハビリ委員会
8月	倫理・常識及び法令遵守について ※	研修・広報委員会
9月	虐待・身体拘束・事故防止について 感染症について	リスクマネジメント委員会 安全衛生委員会
11月	認知症について ※	研修・広報委員会
1月	看取りに関する研修 ※	研修・広報委員会
2月	感染症について	安全衛生委員会
3月	虐待・身体拘束・事故防止について ※ 医療に関する研修	リスクマネジメント委員会 齋籐看護師

イ 外部研修（県内外）

コロナ禍のため、オンライン研修に参加した。

⑨ 各種委員会

ア 安全衛生委員会

職員の健康診断（インフルエンザワクチン接種、新型コロナウイルスワクチン接種）、メタボリックシンドロームに着目した特定健診及び特定保健指導、感染症マニュアルの見直し、産業医との連携、水道水残留塩素測定、ストレスチェック等を実施した。新型コロナウイルス等の感染症における業務継続計画（BCP）を作成した。

イ 防災委員会

各種想定防災訓練、防災マニュアルの見直し、機器取扱マニュアル、自主点検、緊急連絡網の作成を行った。自然災害等における業務継続計画（BCP）を作成した。

ウ リスクマネジメント委員会

ヒヤリハット報告書等を通して、事故の分析、リスクの回避、安全な環境の提供及び介護事故の防止に努めた。虐待や身体拘束の研修を行い、発生防止の徹底を図った。

エ 研修・広報委員会

実地指導に義務付けられた研修を中心に開催した。また、全体会については新型コロナウイルスの感染防止を図るため、参加人数の制限や座席の配置を工夫して開催したほか、書面開催も併用した。また、すげさわ通信（機関紙）、家族会だより、施設のパンフレット作りを行った。ホームページを利用したショートステイ、デイサービスセンターの空き情報の発信や施設の様子紹介にも力を入れた。

オ 食事の委員会

選択食の希望調査、水分補給用飲み物の在庫管理、経口維持及び食事についての提案等を行った。

カ 褥瘡・リハビリ委員会

褥瘡の予防、褥瘡のある方の対応に力を入れた。褥瘡予防のため、電動体位交換ベッドを活用した。

キ 痰吸引委員会

痰吸引研修を修了した介護職員が、看護職員との連携・協働のもとに痰吸引や経管栄

養（医療的ケア）の取り扱いを迅速かつ安全に実施できるように取り組みを行った。

山形県に介護福祉士喀痰吸引実地研修機関の事業所登録を行い、職員1名が施設内での演習を実施し、実地研修を修了した。

1 特別養護老人ホーム菅沢荘（介護老人福祉施設）

安心・安全な介護、事故及び各種感染症の防止に努めたが、6月と11月に新型コロナウイルスのクラスターが発生した。これまでの感染拡大防止策を踏まえ、職員が一丸となって取り組み収束することができた。ベッドの稼働率は目標の95%を若干下回り93.7%であった。

自主事業の認知症カフェは、新型コロナウイルスの感染対策を徹底しながら開催した。地域貢献事業の一環として、毎月2回本沢地区の高齢者を対象に買物支援事業を新型コロナウイルスの感染対策を徹底しながら実施した。

① 利用状況

事業所名		特別養護老人ホーム菅沢荘										入所定員		82名	
事業種別		介護老人福祉施設										目標値		稼働率95%	
項 目		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
本年度	営 業 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366日	－
	延入所者数(人)	2,400	2,418	2,280	2,356	2,418	2,370	2,449	2,190	2,325	2,232	2,233	2,449	28,120人	2,343.3人
	稼 働 率(%)	97.6	95.1	92.7	92.7	95.1	96.3	96.3	89.0	91.5	87.8	93.9	96.3	－	93.7%
	平均要介護度	3.8	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	－	3.8
前年度	延入所者数(人)	2,460	2,524	2,352	2,435	2,476	2,385	2,430	2,407	2,493	2,457	2,136	2,512	29,067人	2,422.3人
	稼 働 率(%)	100.0	99.3	95.6	95.8	97.4	97.0	95.6	97.8	98.1	96.7	93.0	98.8	－	97.1%

② 年齢構成 (令和6年3月31日現在)

年齢	60～69歳	70～75歳	76～80歳	81～85歳	86～90歳	91～95歳	96歳以上	計	平均年齢
人数	1	4	7	15	20	22	12	81人	88.1歳

③ 介護状況 (令和6年3月31日現在)

区分	食事			入浴			トイレ動作			整容			更衣			椅子とベッド間の移乗				歩行			
	自	一	全	自	一	全	自	一	全	自	一	全	自	一	全	自	見	座	全	自	歩	車	全
	立	部	介	立	部	介	立	部	介	立	部	介	立	部	介	立	守	れる	介	立	行	い	介
人数	32	32	17	0	36	45	5	25	51	10	44	27	7	34	40	4	24	29	24	1	9	32	39

④ 身体拘束ゼロ・高齢者虐待防止への取り組み

身体拘束、高齢者虐待はなかった。

⑤ ケアプランに基づくサービスの提供

ア ケアプランの精度を高め、かつ実施度を上げることに努めた。

イ ケアカンファレンスを随時開催し、迅速なケアプランの見直しを行った。

ウ 定期的なモニタリングを実施した。

⑥ ユニットケアの実施

内容の充実を図った。

⑦ 個別的ケアの実施

ア 個別的な関わりを入所者に対して適時実施した。

イ 個別的ケアでは、手浴、足浴、散歩、リハビリ、整容等を実施した。

⑧ 入所者の安全と健康の確保

ア 安全衛生委員会を中心に、新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルス、疥癬、レジオネラ菌等の感染予防に努めた。

イ 安定した健康状態の保持と早目の処置対応に努めた。

ウ 健康診断の実施

エ インフルエンザ予防接種を入所者及び職員が受け、流行を防止できた。

オ 嘱託医と協力病院との連携に努めた。

カ 健康管理状況

(令和6年3月31日現在)

区分	内科	精神科	皮膚科	歯科	整形外科	耳鼻科	眼科	泌尿器科	婦人科	外科	その他	計
服薬(実人数)	81	17	9	0	5	0	0	2	0	0	0	114人
通院(延人数)	12	1	1	3	6	0	6	23	6	21	9	88人
入院(延人数)	15	5	0	0	0	0	0	0	0	0	4	24人
計	108	23	10	3	11	0	6	25	6	21	13	226人

⑨ 栄養管理

ア 他職種との協働で適切な栄養ケアマネジメント及び経口維持の取り組みを実施し、個別の栄養管理を行った。

イ 行事食の提供等

前年度から業者に給食の献立業務を委託し、季節に合わせた節句料理・お祝い膳等の行事食を11回、選択食を45回入所者に提供した。

ウ 飲酒の日の開催(毎週木曜日)

エ 食事の種類

一般食 普通食62人(高栄養ゼリー、高栄養流動食含む)

療養食 糖尿病食9人、肺炎食2人、心臓病食2人、経管栄養食7人 計82人

オ 食事形態

(令和6年3月31日現在)

主食	ごはん	軟ごはん	全粥	ミキサー粥	ソフト粥	パン	計
人数	21	6	28	0	12	0	67人

副食	常食	キザミ食	極キザミ食	ミキサー食	計	うちソフト食併用者
人数	24	16	23	4	67人	13人

流動食	高栄養ゼリー	高栄養流動食	経管栄養	計
人数	2	3	7	12人

※うち食事併用者6人

⑩ 作業療法士によるリハビリテーション

(令和6年3月31日現在)

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
評 価	1	2	2	3	1	1	0	0	2	3	4	0	19人	1.6人
個 別	39	38	30	23	30	28	33	5	4	38	14	35	317人	26.4人
そ の 他	4	0	0	1	0	15	8	2	1	2	7	1	41人	3.4人
福 祉 用 具	3	6	3	7	4	1	6	2	2	4	3	10	51人	4.3人
計	47	46	35	34	35	45	47	9	9	47	28	46	428人	35.7人

⑪ 行事・レクリエーション

生活の潤いと楽しさを演出するため、新型コロナウイルスの感染防止を図りながら、次の行事を実施した。

ア 全体行事 夏祭り、敬老会、芋煮会（それぞれ職員と入所者のみの参加）

イ 季節行事 花見、節句、七夕、紅葉狩り、クリスマス会、正月

ウ 活 動 朝の体操、創作活動、書道、絵画等

エ レクリエーションワーカーによる各種レクリエーションの実施

⑫ 各種会議の開催

入所者の処遇の安定と向上を図るため、次の会議及び委員会を開催した。(書面開催含む)

- ・すげさわ経営会議 12回
- ・ユニット職員会議 10回
- ・カンファレンス 22回
- ・各種委員会の開催 98回
- ・職員全体会議 7回

⑬ 入所決定会議の開催

次の入所者を選出するため、緊急性・透明性・公平性に留意し、年2回開催した。

⑭ 災害訓練

- ・総合防災訓練（地震・火災避難訓練） 各1回
- ・部分訓練 4回
- ・防災機器、車椅子取り扱い講習 1回
- ・夜間想定避難訓練 1回
- ・防災設備自主点検 12回
- ・通報招集訓練 1回

⑮ 実習生等の受け入れ

- ・施設実習 4名
- ・介護初任者研修 1名

⑯ ボランティア活動（新型コロナウイルスの感染防止のため受け入れ中止）

- ・不定期的活動 0人
- 年間延べ活動人数 0名

⑰ 苦情解決

今年度は苦情がなかった。

⑱ 家族会との連携

- ・夏祭りや敬老会の共催は、新型コロナウイルスの感染防止のため自粛していただいた。
- ・アンケート調査の実施

⑲ 高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業（山形市委託事業）

高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）に生活援助員を派遣し、入居者の安否確認、生活相談を実施し、関係機関と連携に努め、入居者の安全安心な生活の確保に努めた。

- ・市営南山形住宅（E棟） 35世帯のうち、シルバーハウジング10世帯

- ・市営南山形住宅（G棟） 32世帯のうち、シルバーハウジング10世帯

ア 安否確認

入居者の希望を考慮して確認の曜日を決め、電話又は訪問により安否確認を実施した。

〈E棟・G棟〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243日
電 話	80	97	84	89	91	87	99	89	84	78	76	80	1,034回
訪 問	1	0	2	2	2	1	2	3	3	2	1	1	20回
計	81	97	86	91	93	88	101	92	87	80	77	81	1,054回

イ 生活相談

毎月相談日（月8時間）を設け、市営住宅の相談室において生活相談等を行った。生活援助員では対応できない相談については、関係機関と協議して対応した。

〈E棟・G棟〉

内 容	相 談 の 形 態				計
	電 話	訪 問	相 談 日	そ の 他	
医療・健康	0	0	0	0	0件
福 祉	0	0	0	0	0件
家 族	0	0	0	0	0件
そ の 他	0	0	0	0	0件
計	0	0	0	0	0件

ウ 緊急対応

緊急時対応は「緊急時対応マニュアル」に基づき、電話及び訪問により速やかに状況を確認し必要な対応を行った。夜間・休日の通報及び初期対応を警備会社に委託し、連絡を受けた場合は職員が迅速に対応した。

〈E棟・G棟〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実報(時間内)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
実報(時間外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
誤報(時間内)	0	0	0	1	1	1	0	0	0	2	1	2	8件
誤報(時間外)	0	1	1	3	1	0	2	1	1	2	1	3	16件
計	0	1	1	4	2	1	2	1	1	4	2	5	24件

エ 一時的家事援助

〈E棟・G棟〉 0件

オ 関係機関との連携

毎月、市長寿支援課に実績報告を行い、生活状況や介護の状態の悪化など困難なケースが発生した場合は、連携を図り対応した。

〈E棟・G棟〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
サービス業者	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	4件
地域関係者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
長寿支援課	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2件
住宅管理センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
計	0	0	1	0	1	0	1	0	2	0	1	0	6件

2 菅沢荘ショートステイ（短期入所生活介護事業）

稼働率は、10月に90%を超えるも1年を通して70%～80%台で推移し、年間の平均稼働率は83.2%で前年度より1.1%上回った。11月15日～29日と2月22日～3月3日に複数の利用者に新型コロナウイルスの感染が確認されたことから新規の受け入れを停止した。他部所での新型コロナウイルスの感染が確認された際は、ゾーニング等の感染防止対策を徹底した上で営業を継続した。

① 利用状況

事業所名		菅沢荘ショートステイ										利用定員		18名／日	
事業種別		(介護予防) 短期入所生活介護										目標値		稼働率90%	
項 目		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
営 業 日 数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366日	－
本 年 度	延利用者数(人)	461	462	420	424	480	474	521	406	466	465	440	460	5,479人	456.6人
	稼 働 率(%)	85.4	82.8	77.8	76.0	86.0	87.8	93.4	75.2	83.5	83.3	84.3	82.4	－	83.2%
	平均要介護度	2.4	2.5	2.3	2.4	2.3	2.3	3.1	3.0	2.9	2.6	3.2	2.2	－	2.6
前 年 度	延利用者数(人)	446	463	432	479	449	349	410	481	447	437	490	511	5,394人	449.5人
	稼 働 率(%)	82.6	83.0	80.0	85.8	80.5	64.6	73.5	89.1	80.1	78.3	97.2	91.6	－	82.1%

② 作業療法士によるリハビリテーション

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
評 価	0	1	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	6人	0.5人
個 別	0	1	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	6人	0.5人
運 動 療 法	188	125	154	61	184	196	272	47	127	216	135	233	1,938人	161.5人
福 祉 用 具	1	0	0	0	0	1	0	1	2	7	1	2	15人	1.3人
そ の 他	13	3	5	10	10	4	1	8	5	0	1	0	60人	5.0人
計	202	130	161	73	198	203	273	56	134	223	137	235	2,025人	168.8人

3 菅沢デイサービスセンター 通常型・認知症型（通所介護事業）

利用者の新型コロナウイルス感染による利用中止や、12月の天井雨漏り修繕工事のための利用制限の影響もあり、通常型の平均稼働率は68.2%で前年度の68.9%を下回った。認知症型の平均稼働率は18.2%で前年度の17.1%と1.1%上回った。

① 利用状況

事業所名		菅沢デイサービスセンター（通常型）											利用定員		25名／日	
事業種別		通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業（通所型サービス）											目標値		稼働率85%	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
本年度	営 業 日 数	20	23	22	21	23	21	22	22	21	20	21	21	257日	－	
	延利用者数(人)	354	408	400	375	386	365	372	363	304	335	360	361	4,383人	365.3人	
	1日平均利用(人)	17.7	17.7	18.2	17.9	16.8	17.4	16.9	16.5	14.5	16.8	17.1	17.2	－	17.1人	
	稼 働 率 (%)	70.8	71.0	72.7	71.4	67.1	69.5	67.6	66.0	57.9	67.0	68.6	68.8	－	68.2%	
	平均要介護度(総合事業除く)	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7	－	1.8	
前年度	延利用者数(人)	419	431	430	410	433	172	367	407	338	323	336	413	4,479人	373.3人	
	稼 働 率 (%)	79.8	78.4	74.8	78.1	75.3	31.3	69.9	74.0	61.5	64.6	67.2	71.8	－	68.9%	

事業所名		菅沢デイサービスセンター（認知症型）										利用定員		10名／日	
事業種別		(介護予防) 認知症対応型通所介護										目標値		稼働率50%	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
本 年 度	営 業 日 数	25	27	26	26	27	25	27	26	25	24	25	26	309日	－
	延利用者数(人)	41	55	65	52	62	50	54	47	39	28	35	33	561人	46.8人
	1日平均利用(人)	1.6	2.0	2.5	2.0	2.3	2.0	2.0	1.8	1.6	1.2	1.4	1.3	－	1.8人
	稼 働 率 (%)	16.4	20.4	25.0	20.0	23.0	20.0	20.0	18.1	15.6	11.7	14.0	12.7	－	18.2%
	平均要介護度(総合事業除く)	1.8	1.8	2.0	2.0	2.0	2.1	2.1	2.5	2.5	2.7	2.4	2.4	－	2.2
前 年 度	延利用者数(人)	43	63	57	51	54	20	45	45	29	44	41	41	533人	44.4人
	稼 働 率 (%)	17.2	23.3	21.1	19.6	20.0	7.7	17.3	17.3	11.2	18.3	17.1	15.2	－	17.1%

② 機能訓練

選択レクリエーションを行い、介護予防・日常生活支援総合事業においては、機能訓練指導員が個別及び集団の機能訓練を実施した。

③ 健康管理

視診、血圧・体温測定（午前・午後2回）、体重測定、服薬の管理など利用者の健康管理と指導を行った。また、新型コロナウイルスの感染防止のため、手洗い、手指消毒、換気等をまめに行った。

④ 家族との連携

連絡帳及び送迎時の情報交換を通して連携を密にし、信頼関係の形成に努めた。

⑤ 関係機関との連携

居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとの連携を密にし、適切なサービスの提供に努めた。また、自作のパンフレットやお便りの発行のほか、月2回ホームページを更新し空き情報の提供に努めた。

⑥ 栄養管理

利用者の嗜好を大切にしながら、季節の行事食を織り交ぜて満足感の得られる食事の提供に努めた。

- ・季節に合わせたお祝い膳
- ・薪を焚いて作る芋煮会の実施

⑦ 災害訓練

菅沢荘と合同で災害訓練を定期的実施した。

⑧ 主な活動

4月	花見、誕生会	10月	芋煮会、誕生会、紅葉狩り
5月	ドライブ、誕生会、運動会	11月	誕生会、ショッピング
6月	ショッピング、誕生会	12月	忘年会、誕生会
7月	あじさい見学、誕生会	1月	初詣、誕生会
8月	ハスの花見学 誕生会	2月	誕生会、雛人形作成
9月	敬老会、出前寿司、誕生会	3月	ショッピング、誕生会

⑨ 苦情解決

今年度は苦情がなかった。

⑩ 運営推進会議（認知症型）

9月と2月に開催し、2月は新型コロナウイルスの感染防止のため書面開催とした。

4 山形西部地域包括支援センター

令和5年度は、社会福祉士2名、保健師2名、主任介護支援専門員1名、事務員1名の職員6名体制で配置基準を満たし1年を通して運営することができた。

高齢者の単身・夫婦世帯や複合的な課題を抱える世帯が増える中、コロナ禍による交流減少の影響か認知症の症状が進行した相談が増え、関係機関とのネットワークの構築により権利擁護に努め、個別地域ケア会議を適宜開催しながら相談業務を行った。新規相談件数は、前年度の490件を8%上回る529件、月平均44.1件で年々増加している。重層的支援対象者である64才以下の方の実態把握の件数も年間15件を数え、少なくない数字と考えている。

ネットワーク連絡会等の開催により、ウィズコロナの地域活動について地域住民や関係者間で共有するとともに、地区関係者とこれからの地域づくりについて話し合った。また、住民向け在宅療養の普及啓発のため、在宅医療・介護連携室ポピーと共同でツール開発を行った『いっぶぐカード』の普及に努めた。地区サロンにとどまらず、ホームページを見て他県からも問い合わせがあった。山形市ケア調整会議にも取り上げられ、全市的に活用できるよう準備を進めている。

介護予防ケアマネジメントは、月平均206.8件で月々の変動はあるものの、総件数は2,481件で前年度に比べて18件の微増となった。

① 総合相談支援業務

ア 相談関係

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
新規相談(件)	94	54	50	39	47	40	44	25	44	34	26	32	529件	44.1件
連絡調整(件)	712	693	725	708	812	766	734	655	694	635	620	743	8,497件	708.1件
実態把握(件)	36	32	35	26	33	29	33	27	23	35	20	28	357件	29.8件

イ 介護予防の講話等

- ・地域のサロン（45回）
- ・南山形健康講話（9回）、福祉道場（2回）、打合わせ（3回）
- ・西山形はつらつ元気教室（2回）、打合わせ（5回）

- ・本沢備える研修（１回）、打合わせ（１回）
- ・山形市認知症予防教室（３回１クール）１地区南山形
- ・本沢地区介護予防重点事業（３回１クール）２サロン

ウ 地域との連携

- ・包括支援センターネットワーク連絡会開催、各地区ネットワーク連絡会（５地区）
- ・地域福祉推進会議（２回）、協力員等研修会（１１回）、地区関係者研修会行事等（４回）
- ・民生児童委員定例会／丸ごと相談会参加（３５回）
- ・民生児童委員個別情報交換（３回）
- ・地域密着型運営推進会議（１３回）ＧＨ・小規模多機能・地域密着型デイ
- ・西山形介護者サロンいっぶぐ会（１０回）
- ・本沢元気もりもり応援隊派遣調整（１７回）
- ・認知症カフェ（市営南山形住宅／１１回、カフェ・オキナグサ再開にむけた打合わせ／４回）
- ・百歳体操後方支援（３３回）大曾根・村木沢・双葉・にしにし会（新規立ち上げ）
- ・認知症サポーター養成講座（３回）サロン・南山形商工会・西山形小
- ・地域交流バス検討会（村木沢あじさいバス３回・南部線５回）
- ・いっぶぐカード関連の打合わせ・広報（９回）

エ 広報活動

- ・センターだよりの発行（４回）
- ・ツナガル大曾根の発行（２回）

② 権利擁護業務

- ・成年後見制度等への対応（１件）
- ・高齢者虐待等への対応（７件）
- ・困難事例への対応（２１件）

③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- ・居宅介護支援事業所連絡会開催（２回）／幹事会（２回）
- ・介護支援専門員等への個別支援（６件）
- ・本沢地区福祉施設相談員情報交換会（１回）
- ・個別地域ケア会議（７回）
- ・自立支援ケア会議（６回、うち包括主催４回）

④ 介護予防ケアマネジメント業務等

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
予 防 給 付(件)	113	117	115	116	114	118	117	117	115	115	115	121	1,393件	116.1件
(うち委託件数)	32	34	34	35	34	33	32	32	34	33	33	33	399件	33.3件
総 合 事 業(件)	99	96	89	92	90	87	88	90	88	91	91	87	1,088件	90.7件
(うち委託件数)	7	6	7	8	8	6	8	7	8	9	9	9	92件	7.7件
認 定 調 査(件)	8	6	2	3	6	7	7	0	6	5	7	4	61件	5.1件
住 宅 改 修(件)	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	8	15件	1.3件

- ⑤ 苦情解決
苦情なし

5 居宅介護支援事業所すげさわ

介護支援専門員3名体制で居宅介護支援事業を行い、サービス提供事業所と連携を図り、契約者のニーズに沿った適切なケアプランの作成に努めた。

請求件数については、全体で1,444件と前年度と同等ではあったが、予防受託分を介護カウントに換算（予防1件＝介護1／2換算）すると実績件数は1366.5件、月平均は113.8件であった。介護支援専門員1人当たりの担当件数は37.9件となった（前年度は39.1件）。

令和6年度介護報酬改定に伴い、介護支援専門員1人当たりの取扱件数が見直され、指定介護予防支援の提供を受ける利用者数の取扱件数（＝上記介護カウント）もこれまでの2分の1換算から3分の1換算になるため単純比較が難しくなる。介護給付の件数増が求められることとなるが、一人ひとりに対する丁寧なケアマネジメントと特定事業所加算Ⅲの算定の維持を基本として相談の受け入れを行っていく。

① ケアプラン作成

事業所名	居宅介護支援事業所すげさわ											利用定員	117名	
事業種別	居宅介護支援											目標値	実績件数1,260件	
項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
介 護 給 付(件)	110	112	107	109	106	108	105	110	109	109	111	110	1,306件	108.8件
予 防 給 付(件)	9	9	10	10	11	11	11	10	10	10	10	10	121件	10.1件
総 合 事 業(件)	1	1	2	2	1	1	1	1	1	2	2	2	17件	1.4件
計	120	122	119	121	118	120	117	121	120	121	123	122	1,444件	120.3件
前年度件数	119	125	125	122	125	117	117	118	119	119	116	121	1,443件	120.3件

Ⅵ 養護老人ホームあたご荘

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の分類が5類に引き下げられたが、引き続き感染症対策を徹底して行いながら、入所者が安全・安心な生活が送ることができるよう処遇に当たるとともに各種行事の再開を行った。また、業務継続計画及び虐待防止指針等を策定し、次年度からの対応が遅滞なく図られるよう整備を行った。

入退所に関しては、各市町及び関係機関との連携に努めたが、入所は0件であった。死亡や措置解除等により11名が退所し、令和5年度末の入所者数は68名となっている。

(1) 入所者の状況

① 入退所状況

事業所名		養護老人ホームあたご荘											入所定員		100名	
事業種別		養護老人ホーム、外部サービス利用型特定施設											目標値		－	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
本年度	入 所 者 数(人)	78	78	77	76	76	75	75	75	73	70	70	68	891人	74.3人	
	新 規 入 所(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人	0.0人	
	退 所 者 数(人)	1	0	1	1	0	1	0	0	2	3	0	2	11人	0.9人	
	入 所 率 (%)	78.0	78.0	77.0	76.0	76.0	75.0	75.0	75.0	73.0	70.0	70.0	68.0	－	74.3%	
要支援・要介護者数(人)		52	53	52	51	51	50	50	52	51	49	49	48	608人	50.7人	
外部サービス契約者数(人)		31	32	31	31	29	28	28	28	27	26	27	26	344人	－	
前年度	入 所 者 数(人)	84	83	83	85	83	85	83	82	81	80	80	79	988人	82.3人	
	入 所 率 (%)	84.0	83.0	83.0	85.0	83.0	85.0	83.0	82.0	81.0	80.0	80.0	79.0	－	82.3%	

※「入所者数」は毎月末日現在の人数、「外部サービス契約者数」は入院者を除いた人数

ア 入所者の前の状況

事由	男性	女性	計
他施設・病院	0	0	0人
自 宅	0	0	0人
計	0	0	0人

イ 退所者の状況

事由	男性	女性	計
他施設入所等	0	4	4人
死 亡	4	3	7人
計	4	7	11人

② 在所期間

(令和6年3月31日現在)

性別／期間	～1年	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20～年	計	平均期間
男	0	10	12	2	0	0	24人	5年11か月
女	0	13	19	10	1	1	44人	7年7か月
計	0	23	31	12	1	1	68人	7年0か月

※最長在籍22年10か月

③ 年齢構成

(令和6年3月31日現在)

性別／年齢	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	計	平均年齢
男	0	11	6	3	2	2	0	24人	77歳
女	0	4	11	7	9	8	5	44人	84歳
計	0	15	17	10	11	10	5	68人	82歳

※最年長者 101歳

④ 措置者の人数枠と入所者数 (令和6年3月31日現在)

市・町(枠)	男性	女性	計	市・町(枠)	男性	女性	計
山形市(86)	22	42	64人	山辺町(4)	0	1	1人
天童市(3)	2	0	2人	中山町(3)	0	1	1人
東根市(2)	0	0	0人	河北町(1)	0	0	0人
寒河江市(1)	0	0	0人	計(100)	24	44	68人

⑤ 要支援・要介護者及び外部サービス利用者の状況 (令和6年3月31日現在)

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
人数	5	11	17	8	3	3	1	48人
外部サービス契約者	0	5	12	7	3	3	1	31人
訪問介護	0	3	9	7	2	1	1	23人
通所介護	0	1	4	3	1	0	0	9人
訪問入浴	0	1	2	0	0	1	0	4人
福祉用具貸与	0	2	5	7	2	1	1	18人
訪問リハビリ	0	1	0	0	1	1	0	3人

⑥ 老人一時入所者の利用状況(ショートステイ)

経済的状況	入所実人員	入所延日数	平均利用日数	うち措置入所した人数(令和5年度中)
生活保護世帯	1人	21日	21日	0人
その他の世帯	6人	804日	134日	0人
計	7人	825日	—	0人

※令和6年3月31日現在一時入所者4人(その他の世帯)

⑦ 無年金者 4人

⑧ 障がい者手帳所持者 20人

ア 身体障がい 10人 イ 精神障がい 6人 ウ 療育手帳(知的障がい) 4人

⑨ 各種疾患に伴う主な定期・不定期受診者 (令和6年3月31日現在)

疾患名(精神)	人数	疾患名(内科)	人数	疾患名(その他)	人数
認知症	19人	高血圧症	44人	脳血管疾患	15人
統合失調症	10人	心臓疾患	22人	白内障	16人
躁うつ病	2人	便秘症	23人	骨粗鬆症	8人
睡眠障害	16人	悪性新生物	12人	皮膚疾患	15人
てんかん	2人	高脂血症	14人	前立腺疾患	5人
		糖尿病	8人	腰痛・腰椎症	5人
		気管支喘息	5人		

⑩ 入院状況

	精神科	内科	外科	循環器科	その他	計	平均入院日数
人数	9	6	2	0	5	22人	131日

※令和6年3月31日現在の入院者7人

⑪ 面会状況

感染防止を考慮しながら予約制で実施した。(延入所者55人に73人の面会あり)

(2) 援助活動

① 主な行事等

4月		10月	七夕飾り バス旅行 夏まつり納涼週間
5月	端午の節句のつどい	11月	教養人生講話会
6月	県老協通信輪投げ大会 笹巻づくり	12月	敬老祝賀会
7月	芋煮会 バス旅行	1月	新年祝賀会 新春喫茶 健康安全祈願祭 だんご木刺し
8月	紅葉狩り	2月	節分のつどい フラダンス講習会
9月	クリスマスのつどい 年末行事	3月	ひな祭りのつどい 教養人生講和会

※買い物ツアー（4～6月／9～11月）車窓ツアー（6月、10月）

② クラブ活動等

クラブ名	きれいにし隊	映写会	大人の塗り絵	フラダンス講習会	ワナゲクラブ	生け花	合計
回数	43回	23回	12回	4回	38回	2回	122回
人数	228人	341人	116人	88人	368人	18人	1,159人

※入所者の自立支援のため「百歳体操」、「荘内ウォーキング」、「夕方のラジオ体操」を毎日実施した。

(3) 食 事

新型コロナウイルスの感染防止対策を講じながら、季節が感じられ「やまがた」の特徴を生かした変化のある献立にするとともに、入所者の高齢化に伴う嚥下機能の低下に対応した食事を提供した。

- ① 選択食（週2回実施）
- ② お祝い膳（新年祝賀会、敬老祝賀会）
- ③ 季節献立（ぼたもち、寿司、芋煮、クリスマスメニュー）
- ④ 季節行事の献立（甘酒、お汁粉、恵方巻ロール）
- ⑤ 食事委員会の開催（献立、新メニュー、食席等の検討）
- ⑥ アンケートの実施（満足度の把握、意見・要望の聴取）
- ⑦ 食事形態

主 食		副 食		
ごはん	全 粥	普 通	刻 み	極刻み
36人	32人	33人	17人	18人

※アレルギー等の対応食36人、減塩食5人、糖尿食5人

(4) 健康及び衛生管理

- ① 往診（医師の出張診療）
内科（月2回） 精神科（月2回） 皮膚科（月1回） 整形外科（月1回）
- ② 訪問歯科診療（月2回） 要介護認定該当者
- ③ 健康診断（年2回） 5月、12月（血液、尿検査）

- ④ インフルエンザ予防接種（11月）、肺炎球菌予防接種（2月）、新型コロナウイルスワクチン接種（随時）
- ⑤ 機能訓練（毎朝の百歳体操の実施）
- ⑥ 口腔ケア（介助を要する入所者へ実施）
- ⑦ 体重測定（毎月1回）及び血圧測定（毎月2回）
- ⑧ 感染症対策委員会（嘔吐物処理研修、感染症予防対策）
- (5) 災害及び事故防止対策
 - ① 防災訓練
 - ・土砂災害想定避難訓練（避難確保計画による避難経路確認） 6月20日
 - ・火災想定避難訓練（消火訓練） 9月26日
 - ・夜間想定避難訓練（非常連絡網による伝達訓練） 11月17日
 - ・地震想定避難訓練（避難及び通報訓練、消火訓練） 3月14日
 - ② 毎月の安全点検（居室・廊下等）
 - ③ 防災委員会（訓練内容の検討・実施、課題の改善）
 - ④ リスクマネジメント委員会（毎月開催、事故防止対策の検討・周知）
- (6) 職員研修

職員のスキルアップ及び入所者へのサービス向上を図るため、職員内研修を実施した。

 - ・年度内の事業について（1回）
 - ・各委員会の計画（1回）
 - ・感染症について（1回）
 - ・吐物処理実技研修（2回）
 - ・AED研修（1回）
 - ・メンタルヘルス研修（2回）
 - ・熱中症について（1回）
 - ・事故防止について（1回）
 - ・身体拘束について（2回）
 - ・高齢者虐待について（1回）
 - ・外部研修報告会（2回）
 - ・入所者アンケート集計（1回）
 - ・荘長と語る会まとめ報告（1回）
 - ・個別ケース検討（23回）
- (7) 荘長と語る会（荘内をブロックに分けて4回実施）
- (8) アンケートの実施（施設の生活等及び食事について 各1回実施）
- (9) あたご荘親睦会（6回） 入所者へ年間の行事説明、意見交換
- (10) 介護等体験受け入れ（10名）

Ⅶ ヘルパーステーションあたご

各種疾患や障がいの程度により、要支援・要介護の認定を受けたあたご荘入所者のうち、利用契約を締結した方を対象に、下記のとおり身体介護サービスを提供した。サービスの提供にあたっては、感染症の予防に留意しながらケアに当たった。また、業務継続計画及び虐待防止指針等を策定し、次年度からの対応が遅滞なく図られるよう整備を行った。

年間利用者数は、要支援者を含め315人で目標の420人を達成することができなかった。その要因としては、あたご荘退所者11名のうち6名が、ヘルパーステーションあたごの利用者だったことが挙げられる。また、入院者が多く、入院期間も長期間になる利用者が多かった。

また、適切なサービスの提供や感染防止対策のため、あたご荘職員と合同で研修を行い、職員のスキルアップを図った。

① サービスの提供状況

ア 要介護者

事業所名	ヘルパーステーションあたご											利用定員	40名	
事業種別	訪問介護、介護予防・日常生活支援総合事業（訪問型サービス）											目標値	年間利用者数420人	
項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
要介護認定者(人)	35	37	35	33	33	32	32	34	34	32	33	32	402人	33.5人
訪問介護サービス利用者(人)	25	26	26	26	25	24	23	22	22	20	20	20	279人	23.3人
排 泄 介 助	18	18	18	17	18	17	17	16	16	14	13	13	195人	16.3人
入 浴 介 助	20	18	18	19	19	17	17	16	16	17	17	17	211人	17.6人
口 腔 ケ ア	6	6	6	6	5	6	6	6	7	5	4	4	67人	5.6人
食 事 介 助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人	0.0人
計	44	42	42	42	42	40	40	38	39	36	34	34	473人	39.4人
前 年 度	45	44	44	44	42	42	43	42	43	39	37	39	504人	42.0人

イ 要支援者

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
要支援認定者(人)	17	16	17	18	18	18	18	18	17	17	16	16	206人	17.2人
訪問介護サービス利用者(人)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36人	3.0人
入 浴 介 助	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36人	3.0人
前 年 度	5	4	6	6	6	5	4	4	5	5	4	4	58人	4.8人

Ⅵ たきやま地域包括支援センター

令和5年度は、新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことに伴い、停滞していた地域活動が活性化し、講師派遣の依頼が増え、地域の方々と顔が見える活動を行うことができた。講義等を通して、地区役員をはじめ多くの方からフレイル（虚弱）予防の重要性・必要性を理解していただき、各町内への広がりを図った。また、業務継続計画書及び高齢者虐待防止指針等を策定し、次年度に向けての体制の整備を行った。

相談実績の件数は前年度より増加し、特に介護保険関係や総合事業の相談件数が増えている。介護予防マネジメントの実績件数は、過去最高の件数となった。滝山地区は市内最多の人口と高齢者数で、将来の高齢者数が大幅に増加する見込みであることから、今後多岐にわたる相談や援助を行うため、職員のスキルアップと多機関協働で円滑に支援できるよう情報交換に努めた。

① 総合相談支援業務

ア 相談実績

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
新規相談(件)	36	35	31	22	31	37	27	34	34	27	26	27	367件	30.6件
連絡調整(件)	560	683	720	578	654	758	830	688	604	599	614	626	7,914件	659.5件
実態把握(件)	18	25	22	13	18	33	16	26	17	25	25	29	267件	22.3件

- いきいきサロンや介護予防教室での相談窓口の開設（27回）

イ 地域との連携

- 民生委員定例会（12回）
- 福祉協力員大会・研修会（3回）、地区代表者会議（4回）、福祉協力員三役会（7回）
- 滝山地区福祉推進会議（1回）
- 滝山地区介護予防のつどい（13回）
- 三者懇談会（6回）
- 青少年健全育成協議会（1回）
- 我が事、まるごと地域づくり（3回）
- 滝山絆づくり（5回）

ウ 介護予防事業

- 介護予防教室（フレイル予防）5回
- 介護予防に関する講話・周知啓発（サロン、介護予防教室、センターだより等35回）
- 通いの場・サロン等の継続支援（コロナ感染予防・体力測定7回）

エ 広報活動

- 包括支援センターだより「あんしん定期便」の発行（6回）
※全戸配布1回、回覧5回
- 公式LINEの配信（8回）

② 権利擁護業務

- 権利擁護に関する周知啓発（成年後見制度、高齢者虐待、消費者被害等23回）
- 成年後見制度申立支援（4件）

- ・高齢者虐待への対応（１件）
- ・困難ケースへの対応（３件）

③ 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ・滝山地区居宅介護支援事業所連絡会（オンライン開催７回、事例検討会２回）
- ・滝山地区小規模多機能型居宅介護支援事業所連絡会（開催２回、オンライン開催２回、事例検討会１回）
- ・自立支援型地域ケア会議（４事例）
- ・個別地域ケア会議（２回）
- ・介護支援専門員への個別支援（１回）

④ 介護予防ケアマネジメント業務

ア 実績件数

事業所名	たきやま地域包括支援センター												利用定員	－名
事業種別	介護予防支援												利用定員	－
項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
予 防 給 付(件)	108	108	119	117	118	120	116	121	120	123	119	118	1,407件	117.3件
(うち委託件数)	41	39	39	43	43	44	44	46	48	51	47	45	530件	44.2件
総 合 事 業(件)	108	105	104	105	110	115	117	112	114	120	112	109	1,331件	110.9件
(うち委託件数)	14	15	15	15	15	15	14	15	15	19	17	16	185件	15.4件
認 定 調 査(件)	9	5	4	4	6	6	5	1	4	7	4	1	56件	4.7件
住 宅 改 修(件)	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	3件	0.3件

⑤ 認知症支援

- ・認知症カフェ「ほっこりカフェ・ぼんぼんカフェ」（６回）
- ・認知症サポーターによる講話（１回）
- ・認知症初期集中支援チーム（認知症対応、同行訪問、センターだよりでの活動紹介）
- ・認知症地域支援推進員（認知症カフェ、認知症予防教室開催に向けた連携）

⑥ 関係機関等との連携

- ・生活支援コーディネーター（バスの乗り方講習会２回、通いの場の立ち上げ、地域ニーズの把握、事業の周知・広報）
- ・こども・高齢者見守り連絡所（介護保険サービス事業所、新聞販売所等29か所）
- ・在宅医療・介護連携室ポピー（人生会議の啓発、医療機関訪問）
- ・多機関協働支援センターとの連携（複雑・多様化した家族問題の相談）、連絡会（12回）、研修参加（１回）
- ・小規模多機能型居宅介護、地域密着型介護老人福祉施設、グループホーム運営推進会議（通常開催27回、書面開催２回）
- ・東北芸術工科大学学生による地域高齢者と若者の交流会の立ち上げ相談等（２回）
- ・看護学校からの実習生の受け入れ（２名）

IX 居宅介護支援事業所たきやま

利用者や家族との信頼関係の構築に努め、自分らしく自立した生活を継続できるよう支援した。地域包括支援センターや関係機関と連携した支援を行うとともに、圏域の居宅介護支援事業所との連絡会や研修会に参加し、質の高いケアマネジメントの提供につなげた。また、山形市より高齢者個別避難計画作成モデル事業の地区として依頼があり、計画策定業務を行うとともに、次年度に向け業務継続計画書及び高齢者虐待防止を策定し、体制の整備を行った。

事業所の安定経営を図るため、令和5年7月より職員1名を採用し、3名体制での事業を実施し、契約件数の増加に努めたが、3名体制の遅れや施設への入所者が増えたことなどから請求件数は848件と目標値には届かなかった。引き続き、家族の支援も考慮しながら、実績件数の増加・確保に努める。

① ケアプラン作成

事業所名	居宅介護支援事業所たきやま											利用定員		－名	
事業種別	居宅介護支援											目標値		実績件数1200件	
項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
介護給付(件)	66	57	61	60	59	61	67	63	67	65	67	68	761件	63.4件	
予防給付(件)	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	5	66件	5.5件	
総合事業(件)	1	1	1	1	1	1	1	2	3	3	3	3	21件	1.8件	
計	72	63	67	66	65	68	74	71	76	74	76	76	848件	70.7件	
前年度	57	58	64	70	67	67	71	62	73	73	66	65	793件	66.1件	

② 更新調査

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
調 査 件 数	7	3	2	4	3	5	1	3	6	4	2	2	42件	3.5件

X 銅町デイサービスセンター

令和5年度の延利用者数は4,923人で令和4年度に比べ214人増加したが、稼働率は52.9%で目標とした75%を下回った。新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことにより、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターと積極的な情報交換を行い、新規利用者の確保に努めたが、体調を崩して入院される方やフレイルの進行により通所が困難で施設入所された方など利用休止・停止の方も多く見られ、大幅な利用者数の増加を図ることができなかった。

① 利用状況

事業所名		銅町デイサービスセンター											利用定員		30名／日	
事業種別		通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業（通所型サービス）											目標値		稼働率75%	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
本年度	営 業 日 数	25	27	26	26	27	26	27	26	25	24	25	26	310日	－	
	延利用者数(人)	382	398	403	383	455	421	449	410	401	386	422	413	4,923人	410.3人	
	1日平均利用(人)	15.3	14.7	15.5	14.7	16.9	16.2	16.6	15.8	16.0	16.1	16.9	15.9	－	15.9人	
	稼 働 率(%)	50.9	49.1	51.7	49.1	56.2	54.0	55.4	52.6	53.5	53.6	56.3	52.9	－	52.9%	
	平均要介護度	2.3	2.5	2.6	2.4	2.4	2.2	2.2	2.0	1.8	1.8	1.9	1.9	－	2.2	
前年度	延利用者数(人)	421	424	422	429	350	426	420	393	367	307	351	399	4,709人	392.4人	
	稼 働 率(%)	56.1	52.3	54.1	55.0	53.0	54.6	53.8	50.4	47.1	46.5	48.8	49.3	－	51.8%	

② 利用者確保対策

近隣の居宅介護支援事業所や地域包括支援センターに働きかけ、新規利用者の確保を図るとともに、隣接する高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）の入居者の利用開拓に努めた。

③ ケアプランに添ったサービスの提供

ケアプランに基づき通所介護計画書等を作成し、利用目的を達成できるよう努めた。

④ 健康管理

ア 視診・血圧・体温の測定、服薬の管理等による健康管理と健康指導を行った。

イ レジオネラ属菌検査（年2回）や残留塩素濃度の測定を行い、浴槽水の衛生管理に努めた。

ウ マスクの着用、施設設備の消毒の徹底により、引き続き新型コロナウイルスの感染防止に努めた。

⑤ 家族との連携

連絡帳の活用や送迎時の情報交換等で連携を図り、信頼関係の維持・形成に努めた。

⑥ 関係機関との連携

居宅介護支援事業所・地域包括支援センターと連携し、適切なサービスを提供した。

⑦ 栄養管理

ア これまで給食業務を委託してきた業者の撤退に伴い、令和5年10月から別の業者に業務を委託したが、混乱もなく継続して利用者に給食を提供することができた。

イ 毎月給食委員会を開催し、家庭の味を大切に食べる楽しさと季節が感じられる食事の提供を行った。

⑧ 主な活動

ア 誕生会（毎月第4週を基本に1週間）

- イ 季節の行事（節分、雛祭り、観桜会ドライブ、夏祭り、紅葉ドライブ、クリスマス等）
- ウ 全体レクリエーション（頭の体操、すごろくゲーム等）
- エ 個人レクリエーション（将棋、トランプ、オセロ、ちぎり絵、書道、創作活動等）

⑨ 利用者家族及び地域への広報

センターだより「あかしや」を毎月、「せせらぎ」を年1回発行した。

⑩ 地域交流

令和5年度はコロナ禍のため中止していた地域のボランティア、慰問団及び介護体験学習の受け入れを再開した。なお、地域交流室は発熱や体調不良を訴える利用者の療養に使用した。

⑪ 災害訓練

- ア 避難訓練、消火訓練及び通報訓練の実施（各1回）、消防用設備等の点検（年2回）
- イ 緊急時対応の体制確立
- ウ 業務継続計画の策定及び必要な体制の整備

⑫ 職員研修

- ア 外部研修 3件
- イ 内部研修 1件 9名

⑬ 苦情解決の取り組み

- ア 「ご意見箱」の設置
- イ センターだよりによる苦情受付体制の周知
- ウ 利用満足度調査アンケートの実施（年2回）
- エ 苦情 0件

⑭ 虐待防止のための措置

指針の策定、委員会の設置及び担当者の配置など虐待防止を推進する体制を整備した。

⑮ 高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業（山形市委託事業）

高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）に生活援助員を派遣して、入居者の安否確認、生活相談を実施し、関係機関と連携しながら、入居者の安全安心な生活の確保に努めた。

- ・市営銅町住宅 118世帯のうち、シルバーハウジング36世帯
- ・市営薬師町住宅 60世帯のうち、シルバーハウジング18世帯

ア 安否確認

平日は毎日実施を基本に、入居者と相談して確認の曜日を決め、電話又は訪問等で安否を確認し、併せて健康状態の把握を行った。

〈銅町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数	20	20	22	20	22	20	21	18	21	19	19	20	242日
電話	197	221	213	208	215	175	217	195	233	216	189	208	2,487回
訪問	1	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	1	9回
計	198	222	214	209	216	175	217	195	234	217	190	209	2,496回

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数	20	20	22	20	22	20	21	20	21	19	19	22	246日
電話	62	78	64	72	80	124	89	73	77	86	74	72	951回
訪問	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1回
計	62	78	64	72	80	125	89	73	77	86	74	72	952回

イ 生活相談

毎月予約制による相談日を設け、各市営住宅の相談室や自室で入居者からの生活相談に応じた。生活援助員では対応困難な相談内容については、関係機関と協議の上対応した。

〈銅町住宅〉

内容	相談の形態				計
	電話	訪問	相談日	その他	
医療・健康	0	0	0	0	0件
福祉	0	0	0	0	0件
家族	0	0	0	0	0件
その他	0	0	0	0	0件
計	0	0	0	0	0件

〈薬師町住宅〉

内容	相談の形態				計
	電話	訪問	相談日	その他	
医療・健康	0	0	0	0	0件
福祉	0	0	0	0	0件
家族	0	0	0	0	0件
その他	0	0	1	0	1件
計	0	0	1	0	1件

ウ 緊急時対応

緊急時対応は「緊急時対応マニュアル」に基づき、電話又は訪問により速やかに状況を把握し、迅速適正に対応した。夜間・休日の通報及び初期対応を警備会社に委託し、連絡を受けた場合は職員が迅速に対応した。

〈銅町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実報(時間内)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1件
実報(時間外)	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3件
誤報(時間内)	0	0	1	6	0	0	3	0	0	0	0	0	10件
誤報(時間外)	3	2	0	2	2	2	4	3	6	6	2	0	32件
計	3	2	1	8	3	2	10	3	6	6	2	0	46件

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実報(時間内)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
実報(時間外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
誤報(時間内)	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	6件
誤報(時間外)	2	1	4	2	1	2	0	3	0	0	0	2	17件
計	3	2	5	2	1	2	0	3	0	1	1	3	23件

エ 一時的家事援助

〈銅町住宅〉

蛍光灯等の交換、家電の組み立て 他

〈薬師町住宅〉

蛍光灯等の交換、調査書類等の記入支援 他

オ 関係機関との連携

毎月、市長寿支援課には入退院等の状況を報告し、生活状況や介護状況の悪化など困難なケースが発生した場合は、連携を図り対応した。

〈銅町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0		2件
サービス業者	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1		3件
地域関係者	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0		2件
長寿支援課	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	2		6件
住宅管理センター	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		1件
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0件
計	3	0	0	1	4	0	2	0	1	0	3	0	14件

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1件
サービス業者	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1件
地域関係者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
長寿支援課	0	1	0	3	1	0	0	0	0	1	1	0	7件
住宅管理センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
計	0	1	0	4	2	0	0	0	0	1	1	0	9件